

成田国際空港駐機場整備 埋蔵文化財調査報告書

—芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡）・
香山新田新山遺跡（空港No.10 遺跡）—

平成30年3月

成田国際空港株式会社
公益財団法人 千葉県教育振興財団

成田国際空港駐機場整備 埋蔵文化財調査報告書

しばやまち か やましんでんやす ど だい
—芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡）・
か やましんでんにいやま
香山新田新山遺跡（空港No.10 遺跡）—



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として、昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告書第773集として、成田国際空港株式会社の成田国際空港駐機場整備事業に伴って実施した芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）・香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器集中地点や縄文時代早期の遺物包含層・土坑が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、本書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成30年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 平 林 秀 介

凡　例

1 本書は、成田国際空港株式会社による成田国際空港駐機場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

香山新田安戸台遺跡（空港No.9 遺跡） 山武郡芝山町香山新田字安戸台 129-3 他

（遺跡コード 409-026）

香山新田新山遺跡（空港No.10 遺跡） 山武郡芝山町香山新田字下堀尻台 117-1 他

（遺跡コード 409-007）

3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4 発掘調査および整理作業の期間、担当者などについては第1章に記載した。

5 本書の執筆・編集は主任上席文化財主事 新田浩三が行った。

6 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育府教育振興部文化財課、成田国際空港株式会社および芝山町教育委員会の御指導、御協力を得た。

7 本書で使用した地形図は、以下のとおりである。

第3図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「新東京国際空港」(NI-54-19-10-1)、「成田」(NI-54-19-10-3)、「多古」(NI-54-19-10-2)、「酒々井」(NI-54-19-10-4)

第2・5・9・10・24図 新東京国際空港公団発行 1/2,500 新東京国際空港平面図 14・15 (昭和42年測量)

8 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年・平成29年撮影のものを使用した。

9 本書で使用した座標は日本測地系に基づく平面直角座標（国家標準直角座標第IX系）で、図面の方位はすべて座標北である。

10 土器断面図内の「●」は、胎土中に纖維を含有していることを示す。

本文目次

序 文

凡 例

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法と概要	2
第2節 遺跡の位置と周辺遺跡	2
1 遺跡の位置	2
2 周辺の遺跡	6
第3節 基本層序	6
第2章 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 旧石器時代	8
第3節 繩文時代	8
第3章 香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 旧石器時代	10
1 概要	10
2 第1文化層	10
3 第2文化層	13
4 第3文化層	18
5 第4文化層	18
6 単独出土石器	24
第3節 繩文時代	25
1 遺構	25
2 遺物	27
第4章 まとめ	32
第1節 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）	32
第2節 香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）	32
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 グリッドの呼称例	2	第15図 第2文化層炭化物集中地點	16
第2図 香山新田安戸台遺跡・香山新田新山遺跡調査範囲	3	第16図 第3文化層第3ブロック遺物分布	17
第3図 周辺の地形と遺跡	4	第17図 第3文化層第3ブロック出土石器	18
第4図 基本層序	6	第18図 第4文化層第4ブロック出土石器（1）	20
香山新田安戸台遺跡		第19図 第4文化層第4ブロック出土石器（2）	21
第5図 香山新田安戸台遺跡調査次別区域と調査状況	7	第20図 第4文化層第4ブロック器種別分布	22
第6図 第1文化層単独出土石器	8	第21図 第4文化層第4ブロック貝岩分布	23
第7図 第1文化層単独出土石器遺物分布	8	第22図 単独出土石器	25
第8図 土坑	8	第23図 土坑	25
香山新田新山遺跡		第24図 香山新田新山遺跡上層調査成果	26
第9図 香山新田新山遺跡調査次別区域と調査状況	9	第25図 繩文土器（1）	28
第10図 香山新田新山遺跡下層調査成果	10	第26図 繩文土器（2）	29
第11図 第1文化層第1ブロック出土石器	11	第27図 繩文石器	30
第12図 第1文化層第1ブロック遺物分布	12	まとめ	
第13図 第2文化層第2ブロック遺物分布	14	第28図 本遺跡と周辺遺跡出土の小型幾何形ナイフ形石器	32
第14図 第2文化層第2ブロック出土石器	15		

表 目 次

第1表 空港用地および空港開闢の遺跡一覧	5	第5表 第3文化層第3ブロック組成表	18
香山新田新山遺跡		第6表 第4文化層第4ブロック組成表	19
第2表 文化層別器種石材組成表	11	第7表 単独出土石器組成表	24
第3表 第1文化層第1ブロック組成表	13	第8表 旧石器属性表	31
第4表 第2文化層第2ブロック組成表	13	第9表 繩文石器属性表	31

図 版 目 次

図版1 航空写真 昭和42年撮影	第2文化層第2ブロック 近景 南東から
航空写真 平成29年撮影	第2文化層炭化物集中地點 南東から
香山新田安戸台遺跡	
図版3 第1文化層単独出土石器 南から	第3文化層第3ブロック 西から
繩文時代土坑 (2)SK001 南東から	図版3 第4文化層第4ブロック 近景 南から
図版4 香山新田安戸台遺跡出土石器	第4文化層第4ブロック 遠景 西から
香山新田新山遺跡	
図版2 調査風景 南西から	繩文時代土坑 (3)SK001 東から
第1文化層第1ブロック 石器出土状況 南から	繩文時代土坑 (3)SK002 北から
第1文化層第1ブロック 炭化物集中地點 西から	有舌臼頭器出土状況
第1文化層第1ブロック 炭化物集中地點 南から	繩文時代早期遺物包含層B区 南東から
第2文化層第2ブロック 遠景 南東から	図版4 香山新田新山遺跡出土石器
	図版5 香山新田新山遺跡出土繩文土器（1）
	図版6 香山新田新山遺跡出土繩文土器（2）

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

成田国際空港株式会社は、千葉県山武郡芝山町において、成田国際空港駐機場整備を計画した。実施に当たり、千葉県教育委員会へ事業予定地内の埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて照合した結果、予定地内には香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）・香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）が所在する旨、回答があった。千葉県教育委員会は成田国際空港株式会社とその取扱いについて協議した結果、記録保存の措置を講ずることとなった。そこで、公益財団法人千葉県教育振興財團は、成田空港株式会社と発掘調査の実施について調整を行い、駐機場整備に伴う埋蔵文化財調査業務として香山新田安戸台遺跡を平成29年度に、香山新田新山遺跡を平成28・29年度に発掘調査することになった。発掘調査終了後、両遺跡とも平成29年度に整理作業を実施した。各遺跡・各年度の作業内容および担当職員は下記のとおりである。なお、香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）の一部については、平成3年度に発掘調査を実施し、平成14年に『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』の報告書が刊行されている。また、香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）の一部については、昭和54年度と平成元年度に発掘調査を実施し、昭和60年に『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V』、平成15年に『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVIII』の報告書が刊行されている。

香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

（発掘） 第2次調査

期 間 平成29年1月6日～平成29年2月7日

調査対象面積 4,008m²、上層確認調査面積340m²、下層確認調査面積340m²

担 当 者 文化財センター長 上守秀明

調査課長 蜂屋孝之

担当職員 上席文化財主事 岸本雅人

（整理） 第2次調査

期 間 平成29年7月3日～平成30年3月31日

作 業 内 容 水洗・注記～報告書刊行

担 当 者 文化財センター長 上守秀明

整理課長 田井知二

担当職員 主任上席文化財主事 新田浩三

香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）

（発掘） 第2次調査

期 間 平成29年2月8日～平成29年3月29日

調査対象面積 7,582m²、上層確認調査面積178m²、下層確認調査面積552m²、上層本調査面積440m²

担当者 文化財センター長 上守秀明

調査課長 蜂屋孝之

担当職員 上席文化財主事 岸本雅人

(発掘) 第3次調査

期間 平成29年4月5日～平成29年6月30日

調査対象面積 10,900m²、上層確認調査面積848m²、下層確認調査面積836m²、下層本調査面積448m²

担当者 文化財センター長 上守秀明

調査課長 蜂屋孝之

担当職員 上席文化財主事 岸本雅人、文化財主事 小林昂博

(整理) 第2・3次調査

期間 平成29年7月3日～平成30年3月31日

作業内容 水洗・注記～報告書刊行

担当者 文化財センター長 上守秀明

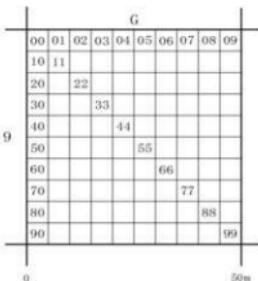
整理課長 田井知二

担当職員 主任上席文化財主事 新田浩三

2 調査の方法と概要（第1図）

発掘調査の開始に当たり、対象遺跡全体に公共座標（日本測地形に基づく国家標準直角座標第IX系）を基準とした方眼網を設定した。方眼は50m×50mの区画を大グリッドとし、さらにその大グリッド内を5m×5mに分割し、100個の小グリッドに分けた。大グリッドは西から東へA、B、C、…K、北から南へ1、2、3、…19と番号をつ⁹け、南東隅が99となる（第1図）。これを大グリッドの名称と組み合わせて、例えば9 G00グリッドのように表記し、遺構・遺物の位置はこの方眼網に基づいて記録した。

9 G00グリッドは、日本測地系座標でX=-25,450,0000、Y=+51,800,0000であり、世界測地系変換値ではX=-25,094,9294、Y=+51,505,9992、北緯35° 46' 21"、東経140° 24' 11"である。



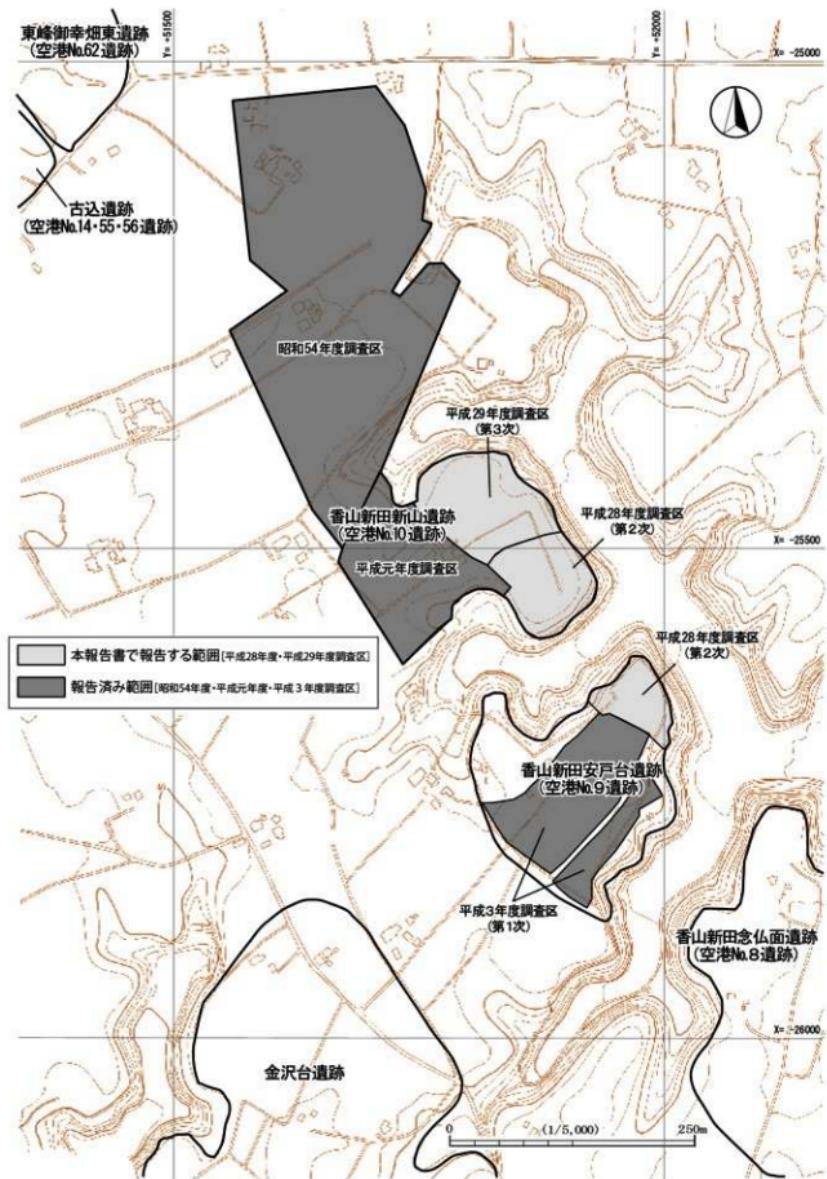
第1図 グリッドの呼称例

第2節 遺跡の位置と周辺遺跡

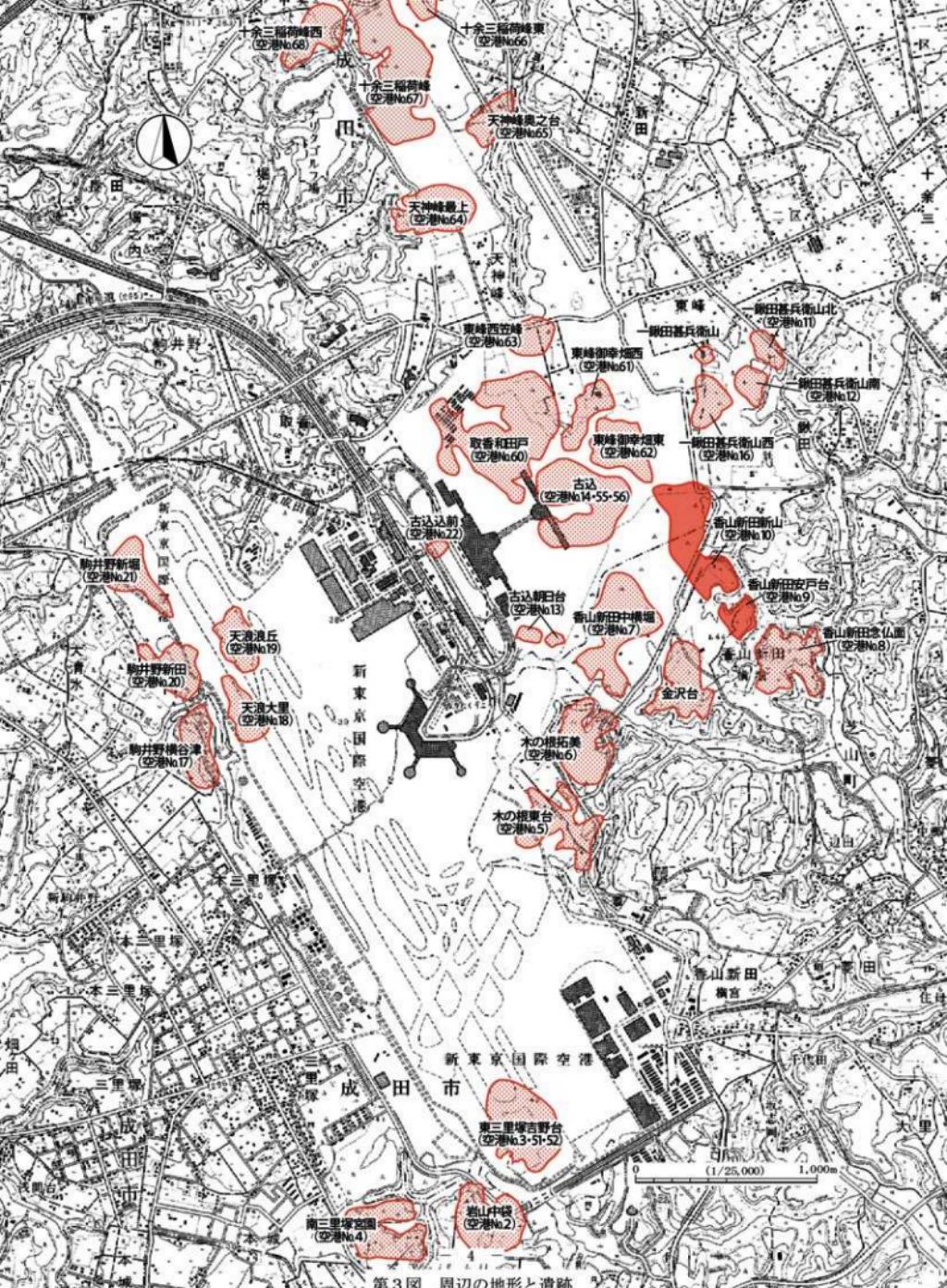
1 遺跡の位置（第2・3図、図版1）

空港周辺地域には、利根川へ北流する河川と九十九里方面へ南流する河川の分水界が走り、全体としては比較的平坦な台地が形成されており、源流域では特に八つ手状に開析を受けた台地が密集する。

香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）と香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）は、成田空港B滑走路の南側に隣接している。九十九里方面へ南流し、横芝光町、多古町の境界で栗山川本流へ合流する高谷川の源流域に位置し、標高約41mの舌状台地に立地する（第2・3図）。



第2図 香山新田安戸台遺跡・香山新田新山遺跡調査範囲



第3図 周辺の地形と遺跡

第1表 空港用地および空港関連の遺跡一覧

遺跡名称	所在地			報告書
	市町村	大字	小字	
香山新田安戸台遺跡(空港No.9遺跡)	山武郡芝山町	香山新田	安戸台	129-3他 2002『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V』 2003『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XIX』
香山新田新山遺跡(空港No.10遺跡)		香山新田	下堀尻台	117-1他
香山新田念仏面遺跡(空港No.8遺跡)		香山新田	念仏面	(未調査)
香山新田中横堀遺跡(空港No.7遺跡)		香山新田	中横堀	101-2他 1984『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV』 1993『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VI』
金沢台遺跡		香山新田	金沢台	80他 2004『建設センター・保全事務所用地内埋蔵文化財調査報告書』
岩山中袋遺跡(空港No.2遺跡)		岩山	中袋	2016他 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V』 1997『土木保管理センター等埋蔵文化財調査報告書』
一鍾田甚兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡)		一鍾田	甚兵衛山	472-2他 1995『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IX』
一鍾田甚兵衛山南遺跡(空港No.12遺跡)		一鍾田	甚兵衛山	454-22他 2005『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XXI』
一鍾田甚兵衛山西遺跡(空港No.16遺跡)	香取郡多古町	一鍾田	甚兵衛山	454-14他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XIV』
一鍾田甚兵衛山遺跡		一鍾田	甚兵衛山	454-1他 1997『刈草置場埋蔵文化財調査報告書』
南三里塚宮園遺跡(空港No.4遺跡)		南三里塚	宮園	6他 1993『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VI』
木の根東台遺跡(空港No.5遺跡)		木の根	東台	217他 1981『木の根』
木の根拓美遺跡(空港No.6遺跡)	成田市	木の根	拓美	192他 1981『木の根』 1993『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VII』
古込朝日台遺跡(空港No.13遺跡)		古込	朝日台	1971『三里塚』
駒井野横谷津遺跡(空港No.17遺跡)		駒井野	横谷津	
天浪大里遺跡(空港No.18遺跡)		天浪	大里	1971『三里塚』
天浪浪丘遺跡(空港No.19遺跡)		天浪	浪丘	1971『三里塚』
駒井野新田遺跡(空港No.20遺跡)		駒井野	新田	
駒井野新堀遺跡(空港No.21遺跡)		駒井野	新堀	
古込込前遺跡(空港No.22遺跡)		古込	込前	1971『三里塚』
東三里塚吉野台遺跡 (空港No.3・51・52遺跡)		東三里塚	吉野台	1971『三里塚』
古込遺跡(空港No.14・55・56遺跡)		古込		1971『三里塚』 1983『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書III』
取香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)		取香	和田戸	711他 1994『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VII』 2002『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』
東峰御幸畠西遺跡(空港No.61遺跡)		東峰	御幸畠	89-1他 2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XIII』
東峰御幸畠東遺跡(空港No.62遺跡)		東峰	御幸畠	89他 2004『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XIX』
東峰西笠峰遺跡(空港No.63遺跡)		東峰	西笠峰	25-2他 1997『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X I』
天神峰最上遺跡(空港No.64遺跡)		天神峰	最上	14-1他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X V』
天神峰奥之台遺跡(空港No.65遺跡)		天神峰	奥之台	17他 1997『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X』
十余三稲荷峰東遺跡(空港No.66遺跡)		十余三	稻荷峰	151-29他 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』 2004『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XX』
十余三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡)		十余三	稻荷峰	151-262他 2006『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XX II』
十余三稲荷峰西遺跡(空港No.68遺跡)		十余三	稻荷峰	151-69他 2002『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X II』 2003『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X VIII』

2 周辺の遺跡（第2・3図、第1表、図版1）

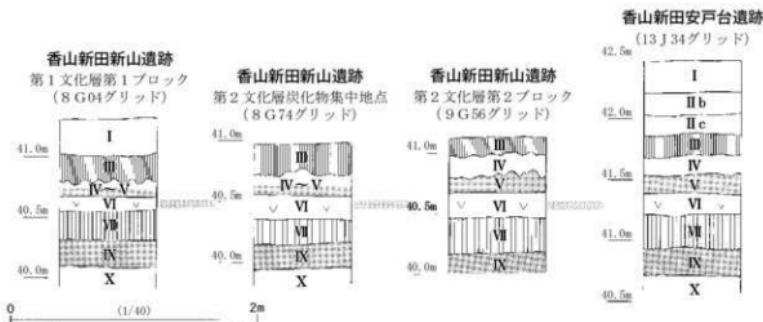
両遺跡の周辺には、高谷川本流から西へ延びる支流に挟まれて複雑に開析された台地上に遺跡が密集し、香山新田中横堀遺跡（空港No.7遺跡）、香山新田念佛面遺跡（空港No.8遺跡）、金沢台遺跡が隣接する。旧石器時代は、香山新田中横堀遺跡では有孔尖頭器を伴う石器群と、立川ロームVII層～VI層中の下総型石刀再生技法による石器群が注目される。また、金沢台遺跡では立川ロームIX層～III層にかけて多数の文化層を検出している。縄文時代の遺構・遺物では、香山新田中横堀遺跡で多くの陥穴・炉穴等の遺構、早期を中心とした遺物包含層が検出されている。

その他、空港用地内とその周辺には数多くの遺跡が所在しており、これらの遺跡は既に報告書が刊行されている。各遺跡と報告書が対照できるよう第1表にまとめた。

第3節 基本層序（第4図）

香山新田安戸台遺跡・香山新田新山遺跡の基本層序は第4図のとおりである。IX層、X層については、細分できなかった。

- I 層 黒色の表土である。
- II b 層 明褐色土である。いわゆる「新期テフラ層」である。
- II c 層 暗褐色土である。
- III 層 明黄褐色ローム土である。立川ローム層最上層に相当する。いわゆる「ソフトローム層」である。下部に向かってソフト化が進行している。赤色スコリアを少量含む。
- IV 層 明褐色ローム土である。硬質のローム層でいわゆる「ハードローム層」である。
- V 層 黄褐色ローム土である。第1黒色帯に相当する。IV層とV層とを区分できる地点は少なかった。
- VI 層 明黄褐色ローム土である。AT（姶良丹沢火山灰）がブロック状に含まれる。
- VII 層 褐色ローム土である。第2黒色帯上部に相当する。赤色スコリアを少量含む。
- IX 層 暗褐色ローム土である。第2黒色帯下部に相当する。赤色スコリアを多く含む。
- X 層 暗褐色ローム土である。スコリア粒がほとんど含まれない。立川ローム最下部層と捉えられるが、武藏野ロームとの境界を明確に識別するのが困難であった。

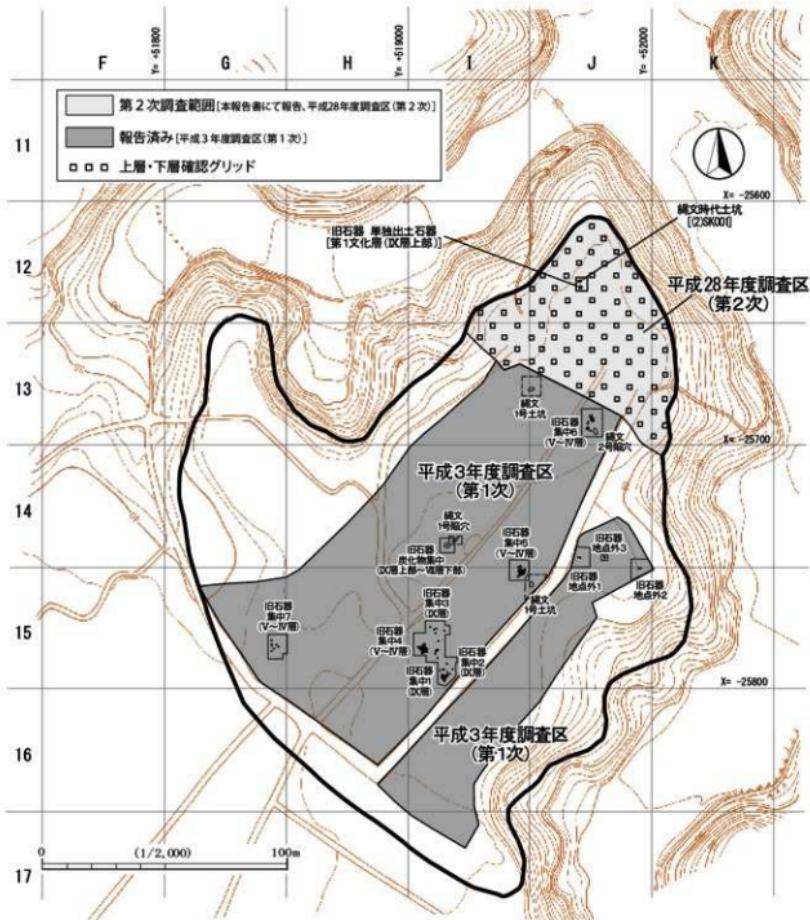


第4図 基本層序

第2章 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

第1節 遺跡の概要（第5図）

調査次別区域と調査状況図は第5図のとおりである。本報告書において第2次調査の成果を掲載する。旧石器時代の単独出土石器1点、縄文時代土坑1基が出土している。平成3年度の調査成果は『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』として、平成14年に報告書が刊行されている。



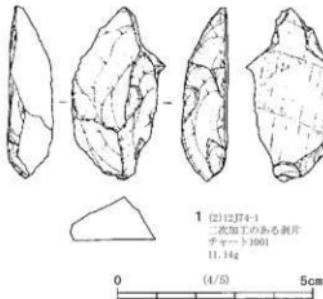
第5図 香山新田安戸台遺跡調査次別区域と調査状況

第2節 旧石器時代

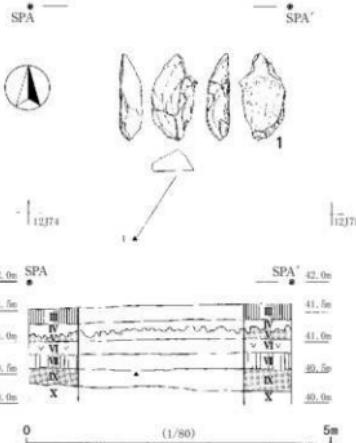
調査区北部の12J74グリッドから単独で石器が出土した。

第1文化層単独出土石器（第6・7図、第8表、図版3・4） 出土層位はIX層上部である。単独出土ではあるが、平成3年度の調査においてIX層の石器群（石器集中1～3）が3か所で出土しており、これらの石器群と関連していると思われる所以、第1文化層単独出土石器として捉えた。

1は二次加工のある剥片である。チャートが用いられている。裏面に節理面が観察される。右面から表面方向に2回の幅広の剥離が行われた後に、裏面左部を打面として急角度の粗い調整加工が施されている。



第6図 第1文化層単独出土石器



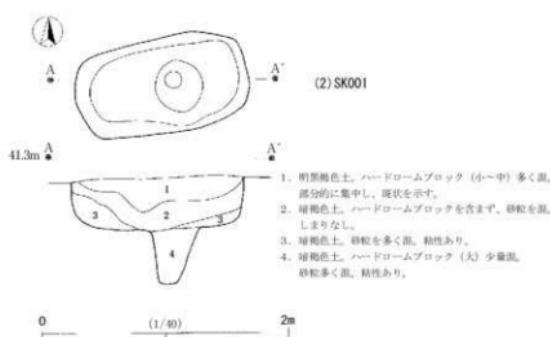
第7図 第1文化層単独出土石器遺物分布

第3節 繩文時代

縄文時代の土坑を1基検出した。遺物は出土していない。

(2)SK001（第8図、図版3） 調査区北部の12J64グリッドに位置する。長軸方向は谷に並行している。平面形は梢円形で、確認面での大きさは長軸1.45m×短軸0.79m、確認面からの深さは0.49mである。長軸方向はN-88°-Eである。底面は凹凸を呈し、長軸0.4mの浅い掘り込みがみられる。覆土中から遺物は出土していない。

平成3年度調査で検出された1・2号土坑と形態的に類似する。

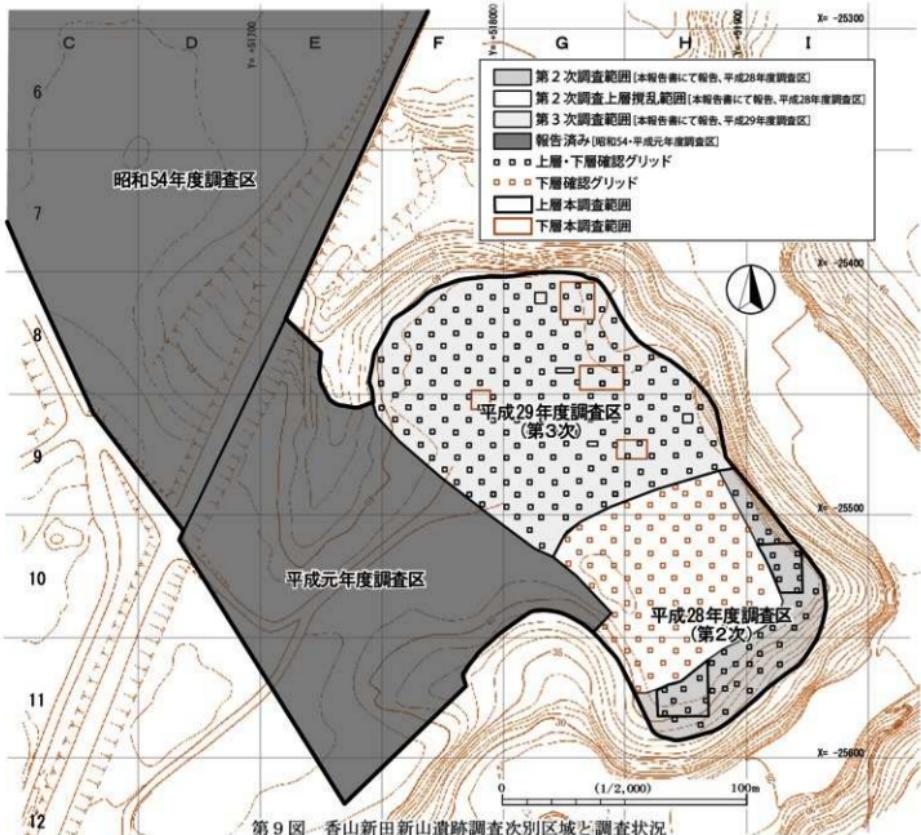


第8図 土坑

第3章 香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）

第1節 遺跡の概要（第9・10・24図）

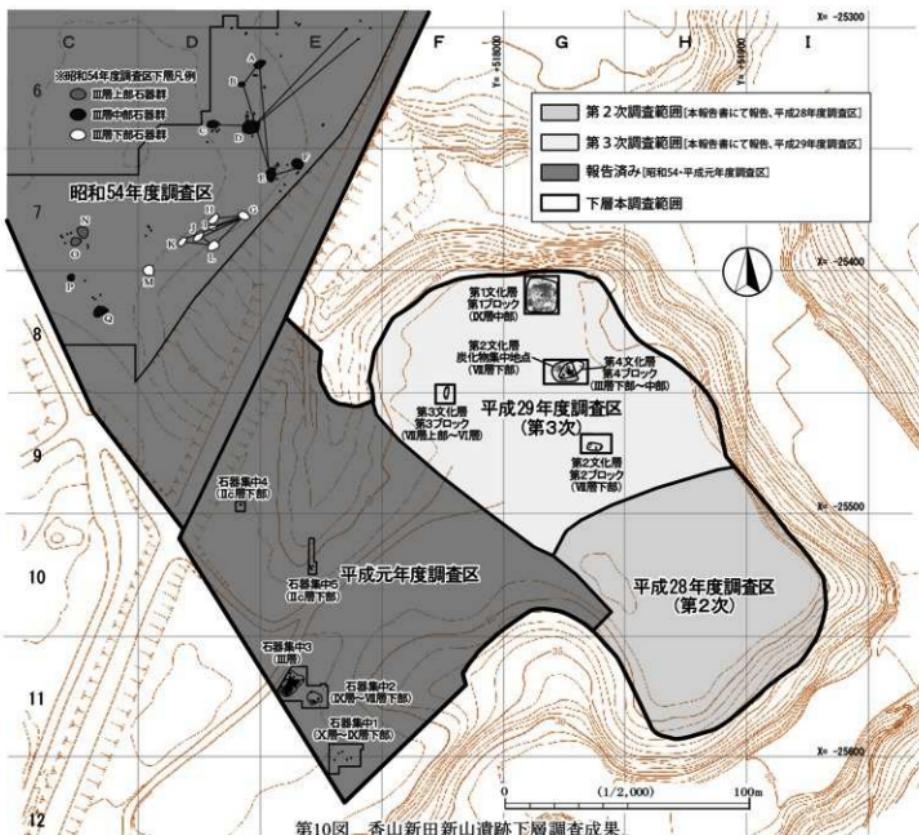
調査次別区域と調査状況図は第9図のとおりである。本報告書において第2次調査と第3次調査の成果を掲載する。下層の成果は4か所の本調査を行った結果、4枚の文化層を検出し、44点の石器と4か所の石器集中地点と2か所の炭化物集中地点が出土した（第10図）。上層の成果は縄文時代の土坑2基と早期の遺物包含層2か所を検出した（第24図）。第2次調査では、中央部から西側にかけて上層が搅乱されていたため下層のみの調査となつた。なお、既に調査した範囲は濃い灰色で示し、昭和54年度調査分は『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V』として昭和60年に報告書が刊行されており、平成元年調査分は『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII』として平成15年に報告書が刊行されている。



第2節 旧石器時代

1 概要（第10図、第2表）

第1文化層（IX層中部）・第2文化層（VII層下部）・第3文化層（VII層上部～VI層）・第4文化層（III層下部～中部）の4枚の文化層を検出し、46点の石器が出土した。既調査の昭和54年度・平成元年度の調査分の成果も併せて第10図に示した。



2 第1文化層

第1ブロック（第11・12図、第3・8表、図版2・4）

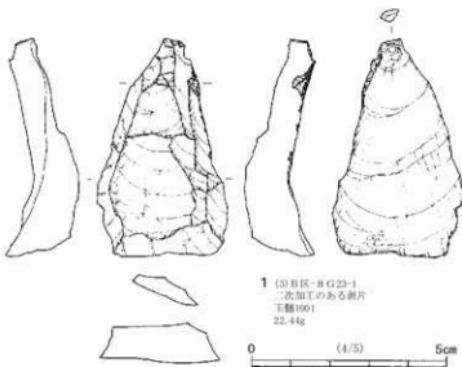
出土状況 調査区北部の8 G02～04・12～14・22～24・32～34グリッドに分布している。石器は集中地点中央部の8 G23グリッドから1点のみの出土で、出土層位はIX層中部である。その他は炭化物片と炭である。発掘時に検出できた炭化物のうち微細なものを炭化物片、約1cm以上のやや大型の炭化材のものを炭

第2表 文化層別器種石材組成表

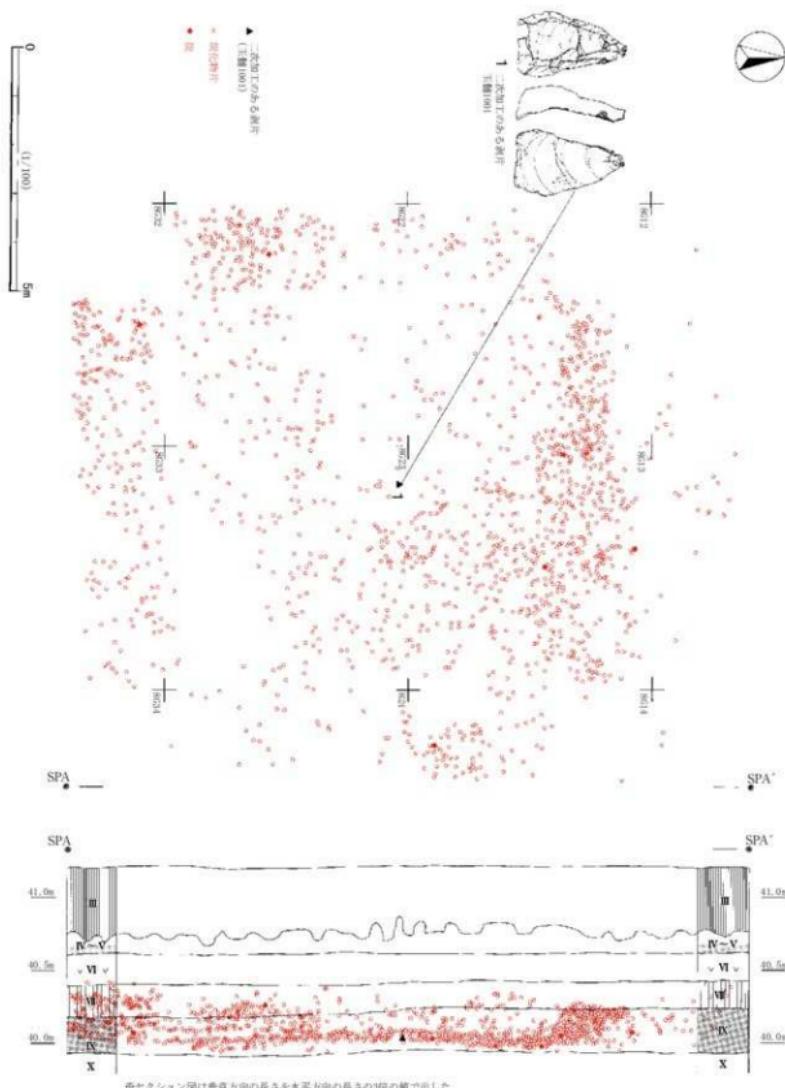
文 化 層 ク	ブ ロ ウ ク	石材 器種	ナ イ フ 石	尖 頭 器	削 器	二 次 加 工 の 有 る 刺	微 細 剥 離 度 の 有 る 刺	剥 片	碎 片	石 核	石 片	計
1	1	玉鉢						1				1
第1文化層合計								1				1
2	2	ガラス質黒色安山岩 流紋岩 珪質頁岩 硬質頁岩 玉鉢							1			1
									1			1
									1			1
									1			1
第2文化層合計								2	3			5
3	3	ガラス質黒色安山岩 玉鉢							1			1
									1			1
第3文化層合計									2			2
4	4	黒曜石 頁岩 珪質頁岩 玉鉢	4		11	3	7	3	2			30
								1				1
									1			1
									1			1
第4文化層合計			5	1	11	3	8	3	2			33
単独	単独	黒曜石 頁岩 流紋岩		1								1
									1			1
単独出土合計								1			1	3
総計	出土点数		5	1	1	14	3	14	3	2	1	44

として出土位置を記録した。微細なものが多かったので、すべての出土位置を記録できたわけではない。南北13.8m×東西11.3mの範囲から炭化物片1,607点、炭7点が出土した。炭化物片と炭の出土層位は、IX層下部～VII層にかけてで、IX層中部～IX層上部に集中する。セクション図は、出土層位を明瞭にするために、垂直方向の長さを水平方向の長さの3倍の値で示した。他の文化層でも同様の方法で図示した。

空港予定地とその周辺では、IX層上部～VII層階で炭化物集中地点が多く検出されており、炭化物集中地点と石器との共伴関係が明確なものはみられないことから、この段階での大規模な「野火」の存在を指摘することができようが、あくまで仮説の域を出ない。本ブロックにおいても、出土層位は炭



第11図 第1文化層第1ブロック出土石器



第12図 第1文化層第1ブロック遺物分布

第3表 第1文化層第1ブロック組成表

母岩 種類	器種	母岩番号	二次加工の ある剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
玉 髓		1001	1	1	100.00	22.44	100.00
全 体	点 数	合 計		1	100.00	22.44	100.00

化物集中地点が石器よりもやや上位に集中する傾向がある。石器に明確な火熱を受けた痕跡がみられず、本ブロックも炭化物集中地点と石器との明確な共伴関係を捉えることができなかった。

出土遺物 1は二次加工のある剥片である。良質な玉髓が用いられている。頭部調整が顕著に行われ、打面の幅が狭い縦長剥片を素材としている。背面の剥離面は、末端部以外はすべて主要剥離面と同一方向の剥離面で構成されている。背面の剥離面の形状から、縦長剥片を量産した石核から剥離されたものと思われる。末端部は厚みをもち、右方向からの剥離面で構成されていることなどから、石核の底面を取り込んだ剥片と推察される。調整加工は、右面上部に平坦な剥離が裏面と表面に施されている。右側縁中部には微細な剥離面がみられる。

3 第2文化層

(1) 第2ブロック (第13・14図、第4・8表、図版2・4)

出土状況 調査区中央部の9G47グリッドに分布している。南北1.5m×東西4.4mの範囲から5点の石器が出土した。出土層位はIX層上部～VII層にかけてで、VII層下部に集中する。

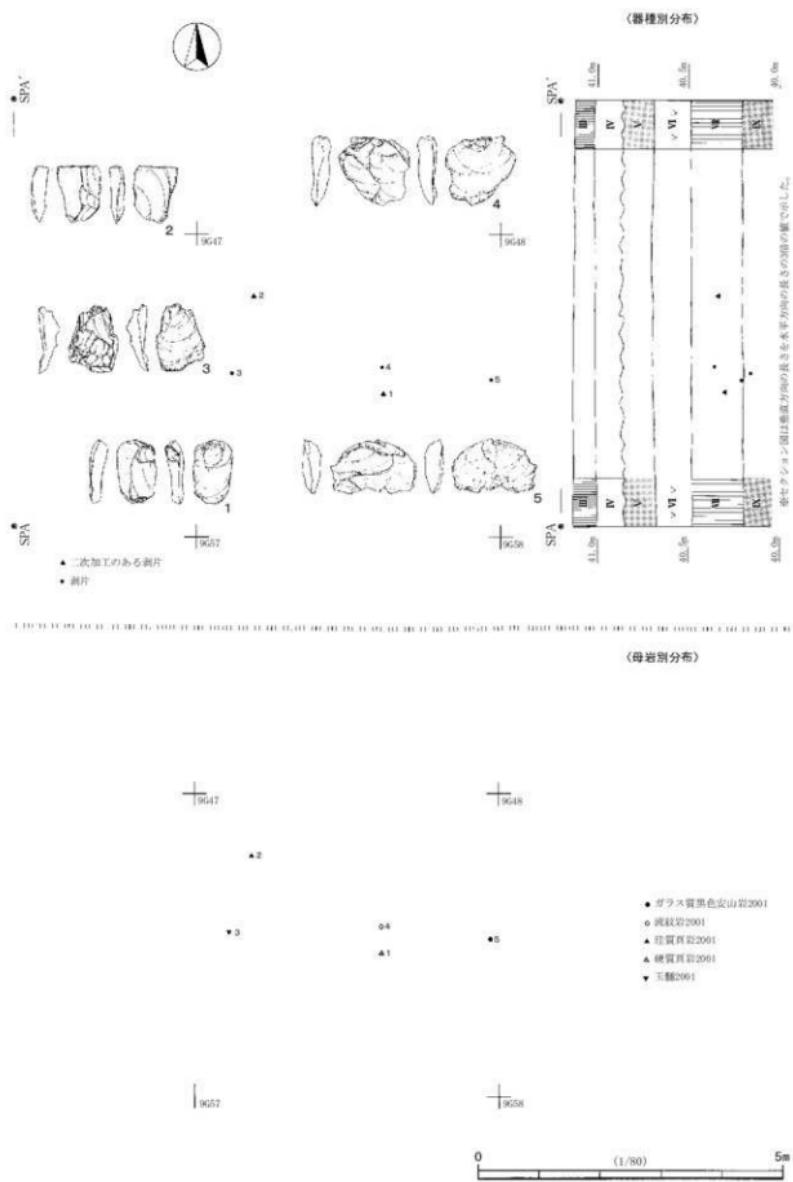
出土遺物 器種組成は、二次加工のある剥片2点、剥片3点である。石材組成は、ガラス質黒色安山岩1点、流紋岩1点、珪質頁岩1点、硬質頁岩1点、玉髓1点である。すべて単独の母岩で持ち込まれており、本ブロックにおいて剥片剥離は行われていない。

1・2は二次加工のある剥片である。1は縦長剥片を素材としている。頭部調整がわずかに行われている。背面は右方向からの剥離面で構成されている。調整加工は、右側縁上部と下端部に平坦な調整加工が施されている。良質な硬質頁岩が用いられている。2は幅広の剥片を素材としている。右側縁下部から斜め方向に打面を除去するような調整加工が施されている。極状剥離による可能性がある。上部は背面側を打面として折断している。左側縁上端部には折断後に微細剥離がみられる。折断によって作成された左側縁上部の縁辺部を刃部として使用したものと思われる。良質な珪質頁岩が用いられている。

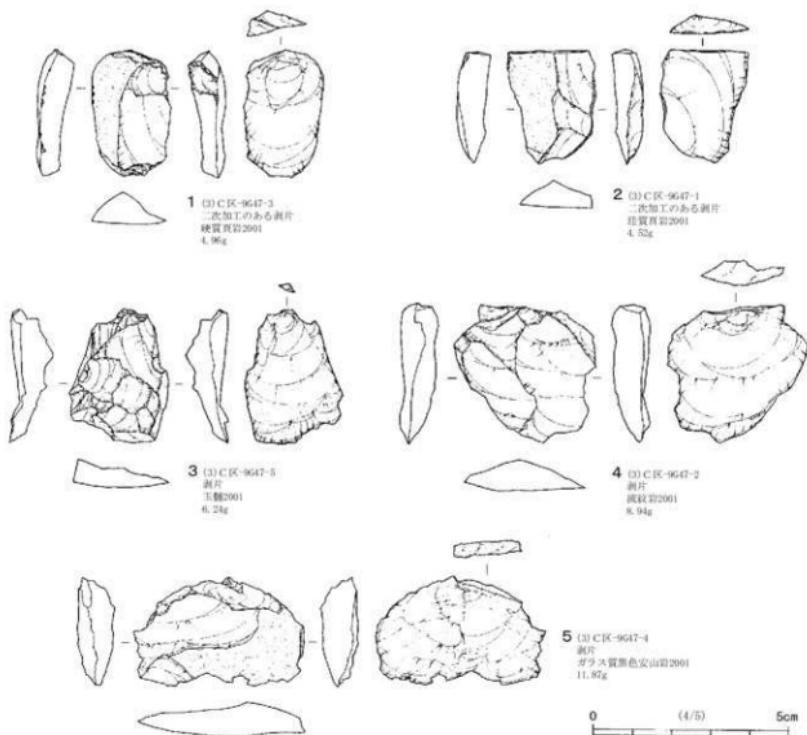
3～5は剥片である。3は左面を打面として数枚の縦長剥片を剥離後に、上部に打面を転移して剥離が行われている。数枚の剥片を剥離後に、打面を90度転移して剥片を剥離していることが窺える。1もこれと同様の剥離工程によって剥離されたものと思われる。4は横長剥片である。頭部調整が顕著に行われている。5は横長剥片である。頭部調整がわずかに行われている。

第4表 第2文化層第2ブロック組成表

母岩 種類	器種	母岩番号	二次加工の ある剥片	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		2001		1	1	20.00	11.87	32.49
流紋岩		2001		1	1	20.00	8.94	24.47
珪質頁岩		2001	1		1	20.00	4.52	12.37
硬質頁岩		2001	1		1	20.00	4.96	13.58
玉 髓		2001		1	1	20.00	6.24	17.08
全 体	点 数	合 計	2	3	5	100.00	36.53	100.00



第13図 第2文化層第2ブロック遺物分布



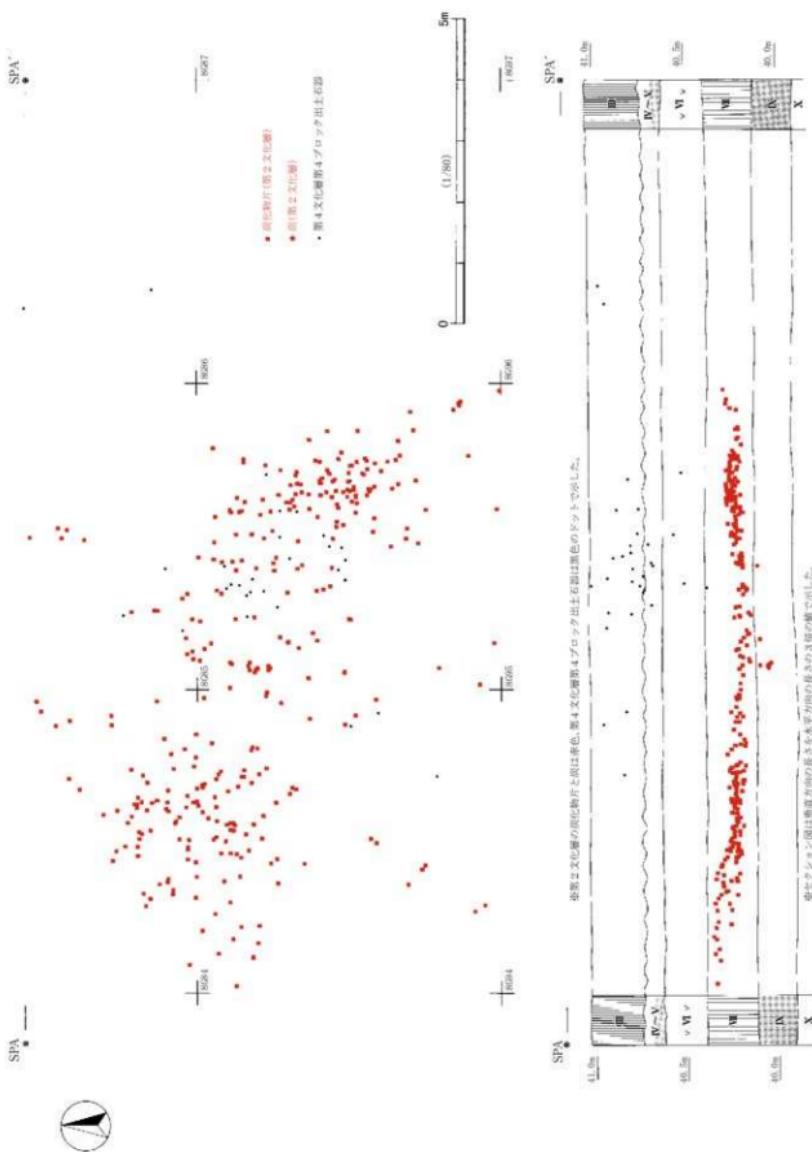
第14図 第2文化層第2ブロック出土石器

(2) 炭化物集中地点 (第15図、図版2)

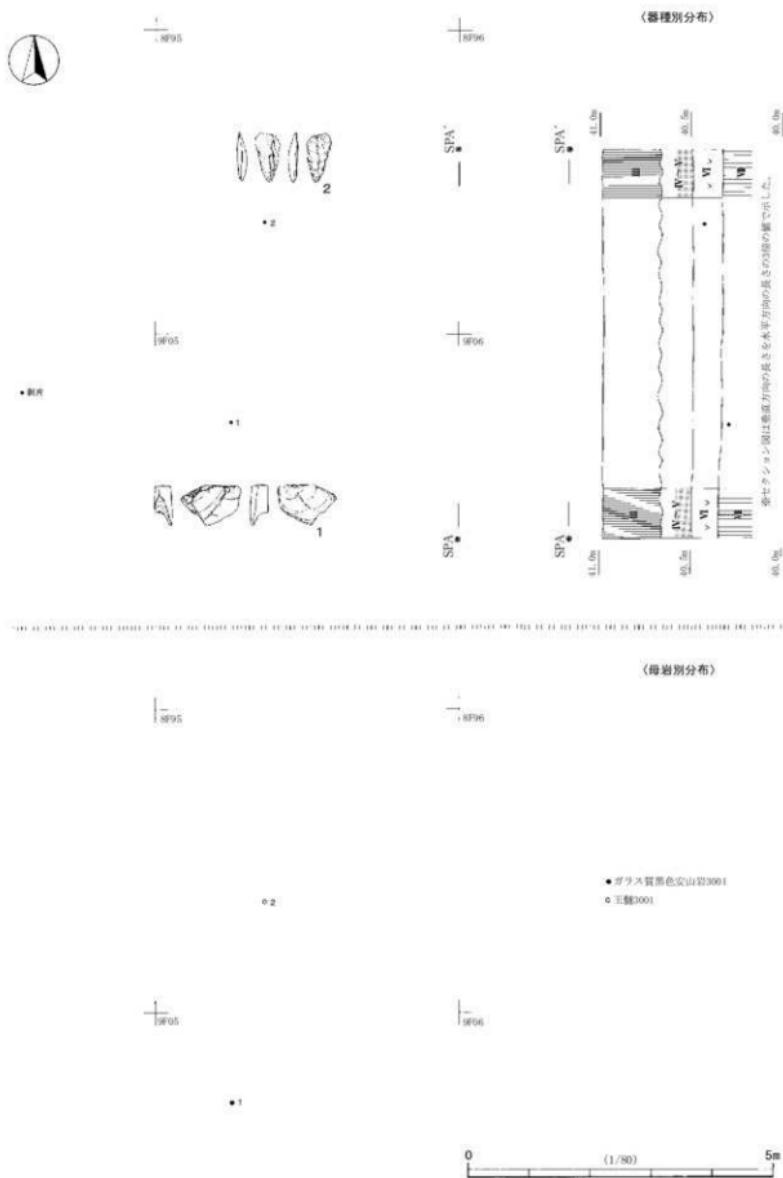
出土状況 調査区北部中央寄りの8G74~76・84・85グリッドに分布している。南北7.9m×東西9.9mの範囲から炭化物片325点、炭1点が出土した。掘り込みなどの痕跡はみられなかった。第1文化層第1ブロックの炭化物集中地点と同様に、発掘時に検出できた炭化物のうち微細なものを炭化物片、約1cm以上のやや大型の炭化材を炭として出土位置を記録した。微細なもののが多かったので、すべての出土位置を記録できたわけではない。

出土層位はIX層上部～VII層にかけて、VII層に集中する。平面分布においては、第4文化層第4ブロックの石器群と重複するが、出土層位では第4ブロックがIII層下部～中部に集中する。また、平面分布の集中地点は、第4ブロックが炭化物集中地点よりも北東側に分布することなどから、炭化物集中地点と第4ブロックは異なる時期の所産のものと判断した。

出土遺物 石器は伴っていない。第1文化層第1ブロックの炭化物集中地点と出土層位がほぼ同じである。空港予定地とその周辺では、IX層上部～VII層段階で炭化物集中地点が多く検出されており、この段階



第15図 第2文化層炭化物集中地点



に大規模な「野火」が存在した可能性がある。ただし、空港予定地とその周辺ではこの段階の石器群が多く検出されており、集落を営むにあたって大規模に野焼きなどを行っていた可能性もある。

4 第3文化層

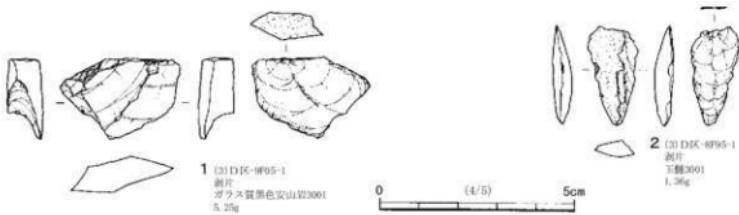
第3ブロック（第16・17図、第5・8表、図版2・4）

出土状況 調査区北西部の8F95・9F05グリッドに分布している。3.4m離れて南北に2点の石器が出土した。出土層位はVII層上部とVI層である。

出土遺物 2点の剥片が出土した。1は頭部調整が行われた横長剥片である。左側縁下部は折断されている。ガラス質黒色安山岩が用いられている。2は縦長剥片で、表面左半部は自然面に覆われている。玉髓が用いられている。

第5表 第3文化層第3ブロック組成表

母 岩	器 種	母岩番号	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		3001	1	1	50.00	5.25	79.43
玉	髓	3001	1	1	50.00	1.36	20.57
全 体	点 数 合 計		2	2	100.00	6.61	100.00



第17図 第3文化層第3ブロック出土石器

5 第4文化層

第4ブロック（第18～21図、第6・8表、図版3・4）

出土状況 調査区北部中央寄りの8G75・76・84・85グリッドに分布している。南北6.5m×東西7.9mの範囲から33点の石器が出土した。出土層位はVII層上部～III層上部にかけてで、III層下部～中部に集中する。第15図で示したように、第4ブロックと第2文化層炭化物集中地点は平面分布では一部重複するものの、出土層位が異なっていることから異なる時期と判断した。

出土遺物 器種組成は、ナイフ形石器5点、削器1点、二次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片8点、碎片3点、石核2点である。ナイフ形石器の占める割合が高い。石材組成は、黒曜石30点、頁岩1点、珪質頁岩1点、玉髓1点である。黒曜石の占める割合がきわめて高い。黒曜石は6つの母岩に識別され、このうち黒曜石4001はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片10点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片2点、碎片1点、石核2点の構成で18点出土しており、第4ブロックの半数以上を占める。黒曜石4001～4006は黒色で透明度が高い石質で、肉眼観察ではあるが信州産のものと思われる。頁岩・珪

質頁岩・玉髓は単独母岩で搬入されている。

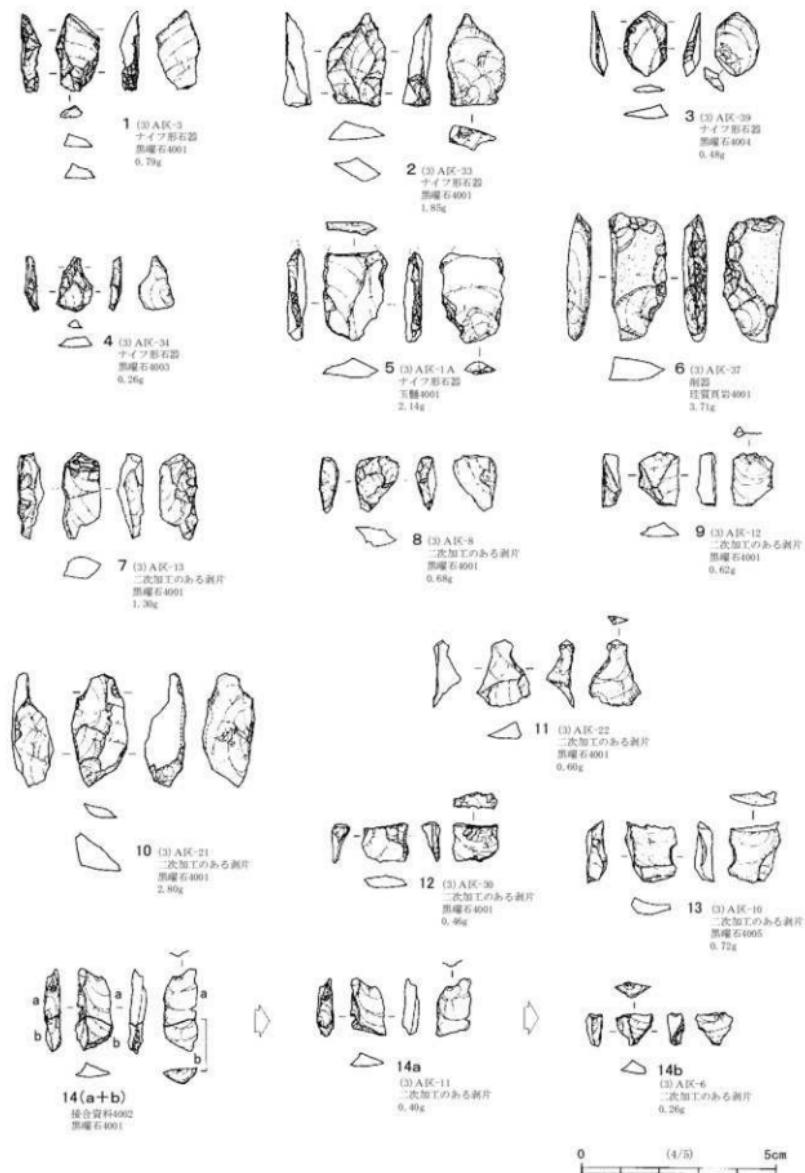
1～5はナイフ形石器である。これらは小型幾何形ナイフ形石器に分類されるもので、ナイフ形石器終末期の「月見野期」に特徴的にみられる石器である。多様な形状をしている。1～4は黒曜石、5は玉髓が用いられている。1は縦長剥片を斜位に用いている。左側縁は、折断した後に急角度の細かい調整加工が施され、右側縁下部は平坦な細かい調整加工が施されている。切出形の形状をしている。2は打面部がやや厚みのある縦長剥片を縦位に用いている。右側縁下部は背面側と腹面側に平坦な調整加工が施され、左側縁上部に細かい調整加工が施されている。素材の打面が残っており、台形の形状をしている。3は厚みのない横長の剥片を斜位に用いている。左側縁と右側縁下部に平坦な調整加工が施されており、菱形の形状をしている。4は厚みのない横長の剥片を横位に用いている。右側縁は平坦な調整加工が施されている。右側縁は上部を折断した後に、折断面の上下両端部に細かい調整加工が施されており、三角形の形状をしている。5は縦長剥片を縦位に用いている。左側縁は上部に粗い調整加工を施した後に、下部に平坦な調整加工が施されている。右側縁下部は主要剥離面方向に平坦な調整加工が施されている。先端部は破損しているが、全体形状は柳葉形をしていたものと思われる。右側縁上部は破損後に細かい調整加工が施されている。

6は削器である。褐色で良質な珪質頁岩が用いられている。表裏両面に自然面が残されていることから、扁平な円礫を素材としたものと思われる。右側縁は表面側に平坦剥離が行なわれた後に、裏面側に細かい平坦剥離が行われている。この調整加工により右側縁下部は銳利な線刃が作出されている。左側縁を折断した後に、上部から平坦な調整加工が施されており、上部にも銳利な線刃が作出されている。

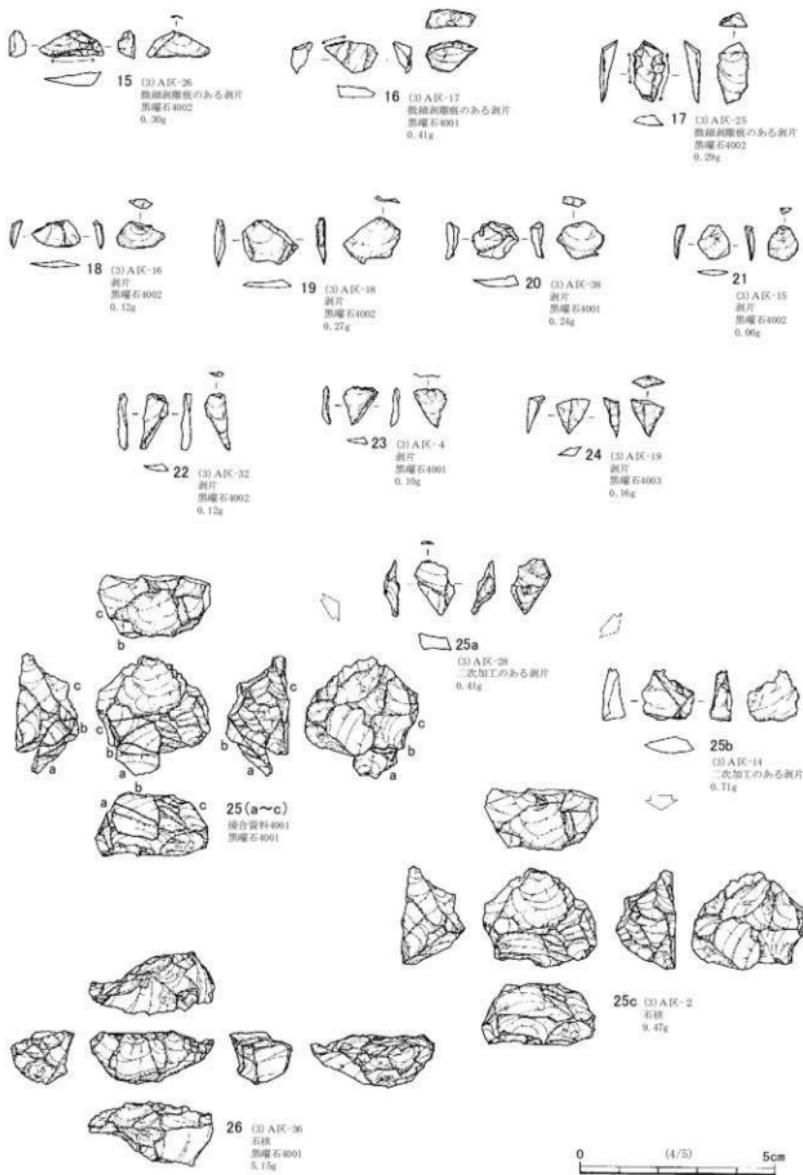
7～14は二次加工のある剥片である。7はやや厚みのある横長剥片を素材として、両側縁と上部を折断した後に、これらの折断面を打面として平坦な調整加工が施されている。8は左側縁と上部を折断した後に、背面側に平坦な調整加工が施されている。9は左側縁と下部を折断した後に、折断面に細かい調整加工が施されている。10は下部を折断しており、右側縁上部と左側縁上部には細かい調整加工が施されている。11は右側縁を折断した後に、折断面の両端部に細かい調整加工が施されている。12は両側縁を折断した後に、下端部に細かい調整加工が施されている。13は両側縁に細かい調整加工が施されている。14(a

第6表 第4文化層第4ブロック組成表

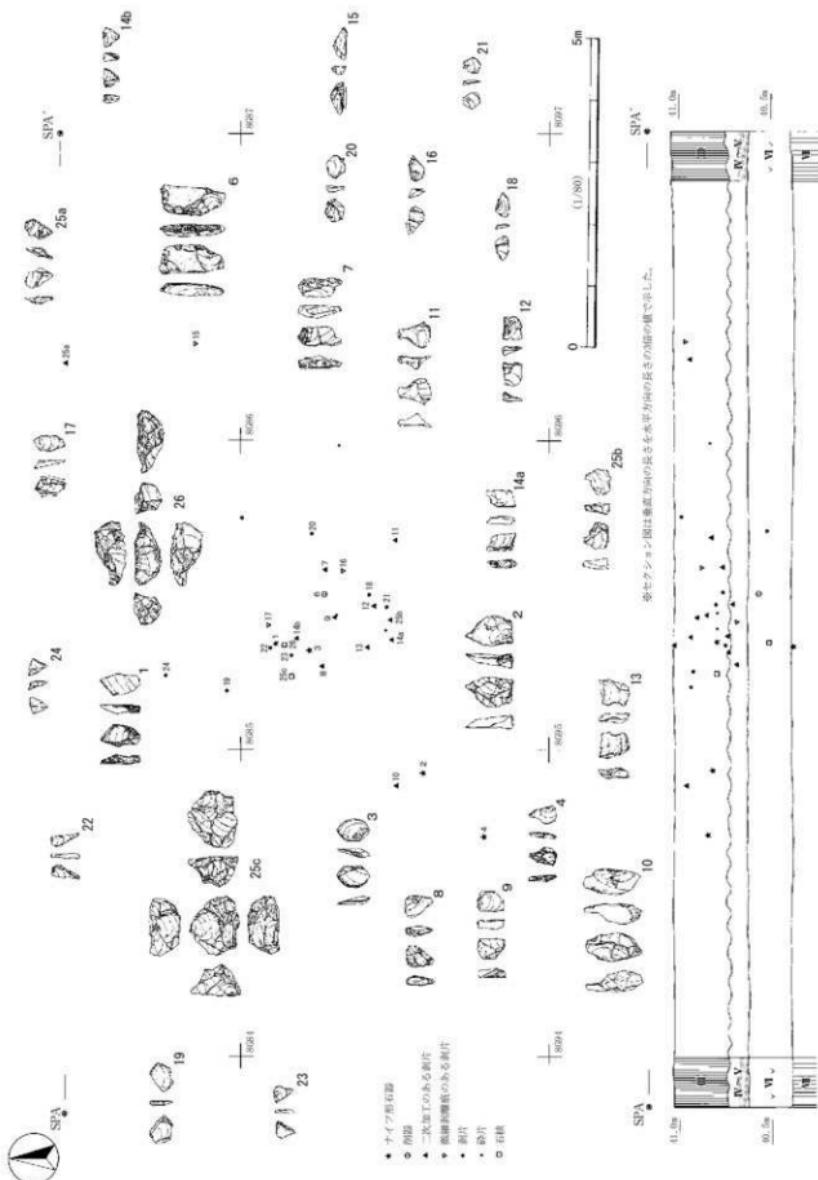
母岩 器種	母岩番号	ナイフ形石器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	4001	2		10	1	2	1	2	18	54.55	26.26	73.74
	4002				2	4	1		7	21.21	1.23	3.45
	4003	1				1			2	6.06	0.42	1.18
	4004	1							1	3.03	0.48	1.35
	4005			1					1	3.03	0.72	2.02
	4006						1		1	3.03	0.03	0.08
黒曜石合計	4			11	3	7	3	2	30	90.91	29.14	81.83
質頁岩	4001					1			1	3.03	0.62	1.74
珪質頁岩	4001		1						1	3.03	3.71	10.42
玉髓	4001	1							1	3.03	2.14	6.01
全 体 点 数 合 計	5	1	11	3	8	3	2	33	100.00	35.61	100.00	



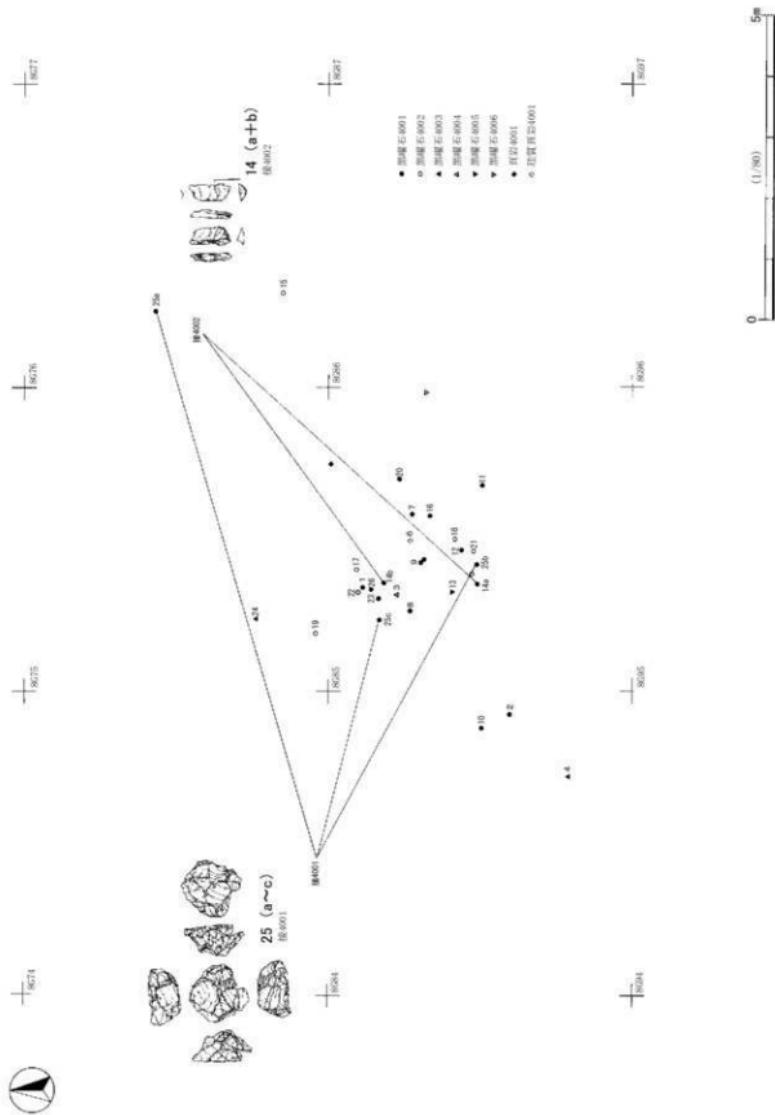
第18図 第4文化層第4ブロック出土石器（1）



第19図 第4文化層第4ブロック出土石器（2）



第20図 第4文化層第4ブロック器種別分布



第21図 第4文化層第4ブロック母岩別分布

+ b) は、縦長剥片を素材として、左側縁下部を折断した後に、右側縁下部に細かい調整加工が施されている。右側縁下部の調整加工を行っている途中で、14 a と 14 b とに分割されている。

15~17は微細剝離痕のある剥片である。いずれも非常に薄い小型の剥片を用いており、鋭利な縁辺に微細剝離がみられる。18~24は剥片である。いずれも微細剝離痕のある剥片と同様に鋭利な縁辺がみられ、これらを刃部として使用した可能性が高い。

25 (a ~ c) は厚みのある分割剥片を素材として、小型の剥片を量産したことを示す接合資料である。25 c の石核は円盤状を呈する。剝離順序は、表面を打面として裏面側に周囲から求心的に剝離した後に、裏面を打面として表面側に周囲から求心的な剝離を行っている。表面側の左下端部からの剝離によって、幅広剥片の 25 (a + b) が剝離され、これを素材として調整加工を行っている途中で、25 a と 25 b に分割されている。

26は石核である。分割した厚みのある剥片を素材としている。剝離順序は、裏面上部を打面として上面方向に小型の剥片を剥離後に、上面に打面を転移して裏面方向と表面方向に小型の剥片を剥離している。

本ブロックの剥片剝離技術は、25 (a ~ c) の接合資料と26の石核に特徴的にみられる。打面転移を繰り返しながら、15~24のような鋭利な刃部をもった小型の剥片を剥離している。ナイフ形石器や二次加工のある剥片は、これらの鋭利な刃部をもった小型の剥片を素材として、折断して形状を整え、側縁に細かい平坦剝離が施されることによって製作されていた。本ブロックにおいて、このような過程で製作されたナイフ形石器は、小型で幾何形（切出形・台形・菱形・三角形）をしたもののが量産されている。

これらの石器の使用方法は、木や骨の側縁に溝を掘り、この溝にナイフ形石器や二次加工のある剥片などをはめ込み、組合せ石器として使用されたものと推察される。

類似する石器群は、昭和54年度調査区から出土し既に報告された香山新田新山遺跡A~F・P・Qブロックの8か所の集中地点、多古町一銀田甚兵衛山北遺跡（空港Na11遺跡）の第1文化層の石器群があげられる。本遺跡周辺地域では月見野期の遺跡群が形成されていたと思われる。

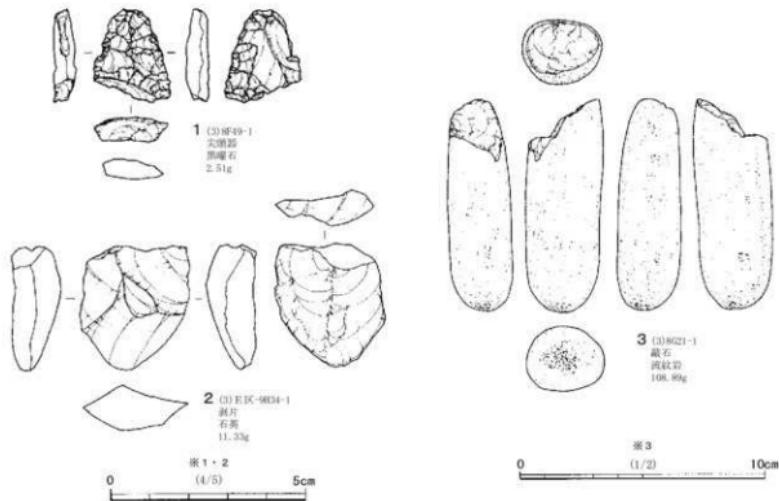
6 単独出土石器（第22図、第7・8表、図版4）

集中地点をもたず単独で出土したものを単独出土石器として扱う。3点が該当する。

1は尖頭器で、黒曜石が用いられている。幅広の剥片を素材としており、表面の全面と裏面の周縁部に平坦な調整加工が施されている。器体の中央部から破損しているために全体形状が不明である。2は打面幅の広い横長剥片である。石英が用いられている。3は敲石である。細長い楕円形礫を素材として、上下両端部敲打痕がみられ、上端部は強い敲打によって破損している。流紋岩が用いられている。

第7表 単独出土石器組成表

母 岩	器 種	尖頭器	剥片	敲石	総計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒 曜 石		1			1	33.33	2.51	2.05
石 英			1		1	33.33	11.33	9.23
流 紋 岩				1	1	33.33	108.89	88.72
全 体 点 数 合 計		1	1	1	3	100.00	122.73	100.00

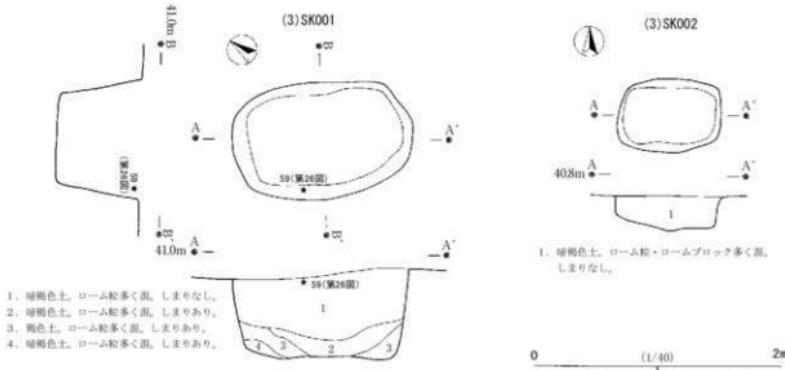


第22図 単独出土石器

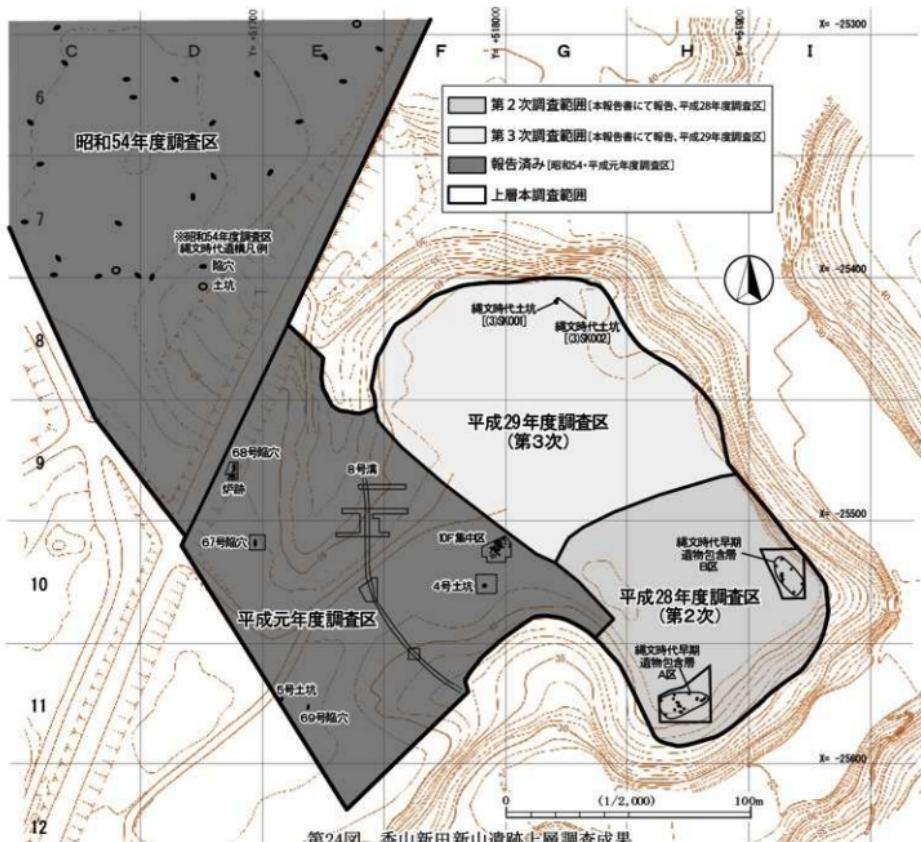
第3節 繩文時代

1 遺構 (第23・24図、図版3)

上層の調査成果は第24図のとおりである。第2次調査と第3次調査からは、縄文時代の土坑2基と早期遺物包含層が2か所検出された。なお、昭和54年度・平成元年度調査区からは、縄文時代の陥穴・土坑などが検出されている。



第23図 土坑



第24図～香山新田新山遺跡上層調査成果

(3)SK001 (第23・26図、図版3) 調査区北部の8 G 14・24グリッドに位置する。長軸方向は谷に並行している。平面形は楕円形で、確認面での大きさは長軸1.43m×短軸0.98mである。確認面からの深さは0.68mである。長軸方向はN-33°-Wである。底面は平坦である。遺物は覆土最上部から第26図59に掲載した田戸下層～上層式土器が1点出土している。1点のみの出土ではあるが、この時期の遺物が周辺部から出土していることから、この遺構の時期は田戸下層～上層式期であると捉えられる。

(3)SK002 (第23図、図版3) 調査区北部の8 G 14グリッドに位置する。南西側0.4mの地点に(3)SK001がある。平面形は楕円形で、確認面での大きさは長軸0.85m×短軸0.62mである。確認面からの深さは0.29mである。長軸方向はN-88°-Wである。底面は平坦である。(3)SK001と同じ形状をしており小型である。遺物は出土していないが、(3)SK001と近接し形態も類似していることから同じ時期のものと思われる。

2 遺物

遺物は、第2次調査で縄文時代早期遺物包含層A区・B区と第3次調査の8G・9Gグリッドから出土したものを中心とする。出土位置が判別できるように挿図遺物番号の右側に調査次数とグリッド番号・調査区番号を掲載した。

(1) 土器 (第25・26図、図版3・5・6)

①早期撚糸文系土器 (第25図、図版5)

1は井草I式土器である。口縁部破片で、口唇部が肥厚し、2条の横走する縄文が施されている。胎土には砂粒が多く含み、焼成が良好である。

2～7は井草II式土器の口縁部破片（2のみ口唇部欠損）である。口唇部に押圧縄文が施文されている。口縁部の肥厚および外反が弱くなり、頸部の横位施文帯がほぼ消失しているものが相当する。井草I式土器よりも胎土中の砂粒がやや少量となる傾向があるが、総じて特徴は類似する。

8～50は撚糸文系土器の胴部破片である。上記の両型式に属するものが混在していると思われるが、分別が困難なため一括して取り扱うこととした。ただし、大半のものが井草II式のものである可能性が高いと思われる。

51～54は大浦山式土器の胴部破片と思われる。斜行あるいは横位撚糸文が施文されている。

②早期沈線文系土器 (第26図55～79、図版6)

55は田戸下層式土器である。口縁部破片で、頸部に横位沈線文を施し、胴部に菱形沈線文が施文されており、口唇部が角頭状を呈する。

56～79は田戸下層～上層式土器の無文土器である。56・60などは器厚が薄く焼成もよい。その他の無文土器は厚みがあり、内外面に擦痕状の調整痕を伴うものもある。58・59は口縁部破片で、口唇部が丸みをもつ。59は(3)SK001の土坑の覆土最上部から出土している。60～77は胴部破片である。78・79は尖底の底部である。

③黒浜式土器 (第26図80～99、図版6)

80は口縁部破片である。口縁が波状を呈する。81～99は胴部破片である。

④諸磯b式土器 (第26図100、図版6)

100は口縁部破片である。

⑤浮島式土器 (第26図101～104、図版6)

101～104は胴部破片である。

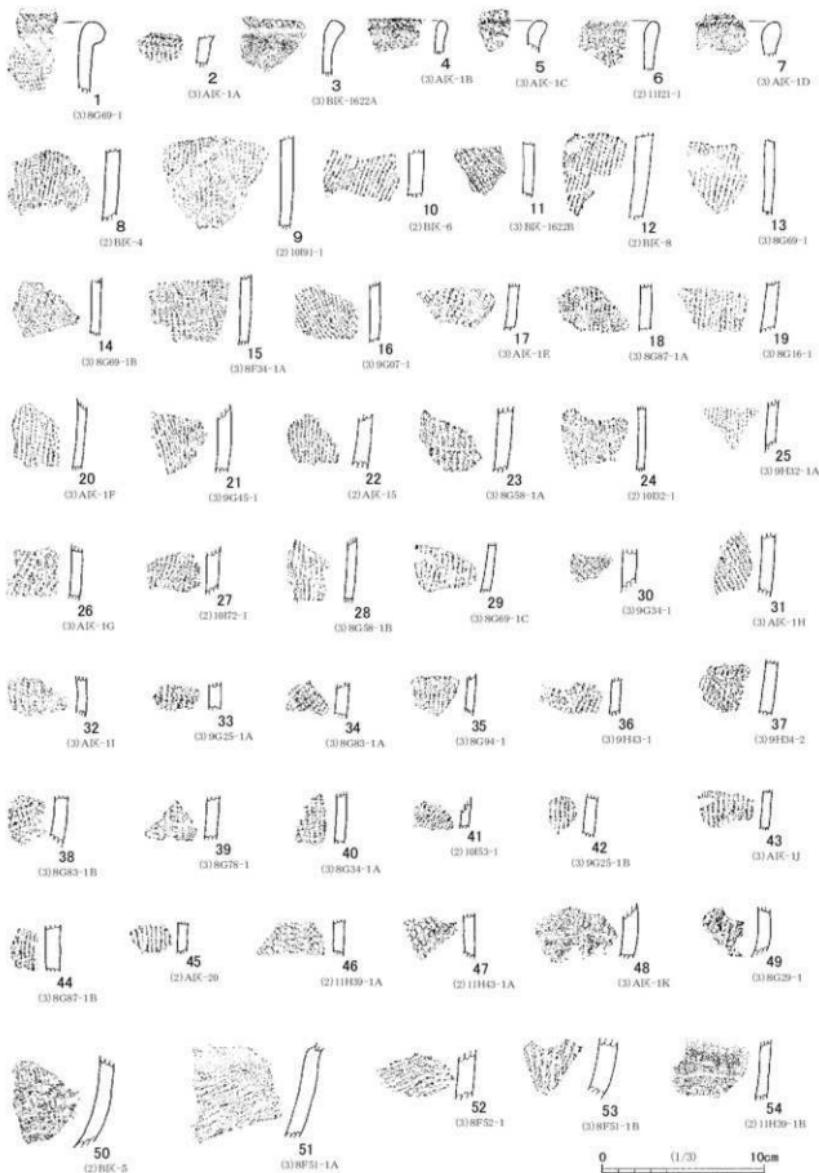
(2) 石器 (第27図、第9表、図版3・4)

縄文石器は5点出土した。

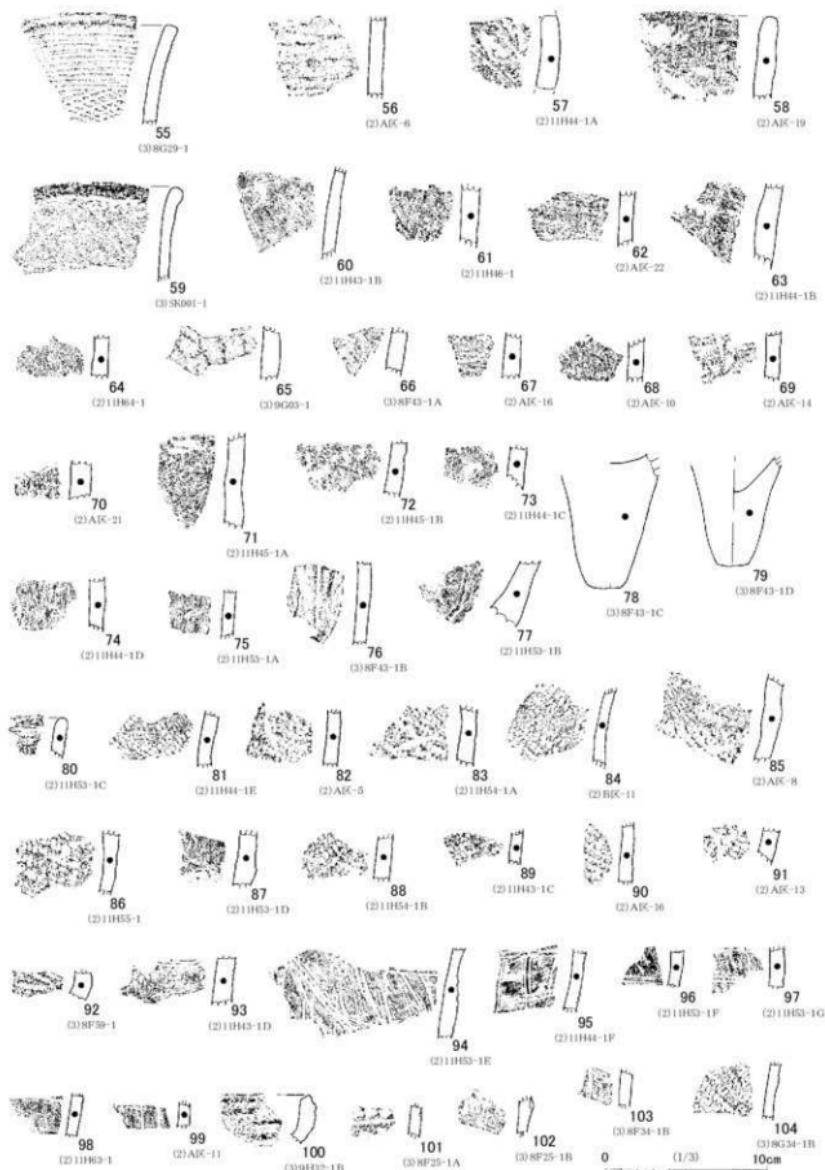
1は有舌尖頭器である。縄文時代草創期のものと思われる。良質のチャートが用いられており、器体全面に平坦剥離が施されている。先端部と茎状の基部に入念な調整加工が施されている。

2・3は石鎌である。いずれもガラス質黒色安山岩が用いられている。2は脚部の抉れが大きい。先端部と右側の脚部が破損している。3は側縁が鋸歯状の形状を呈しており、脚部の抉れが浅い。

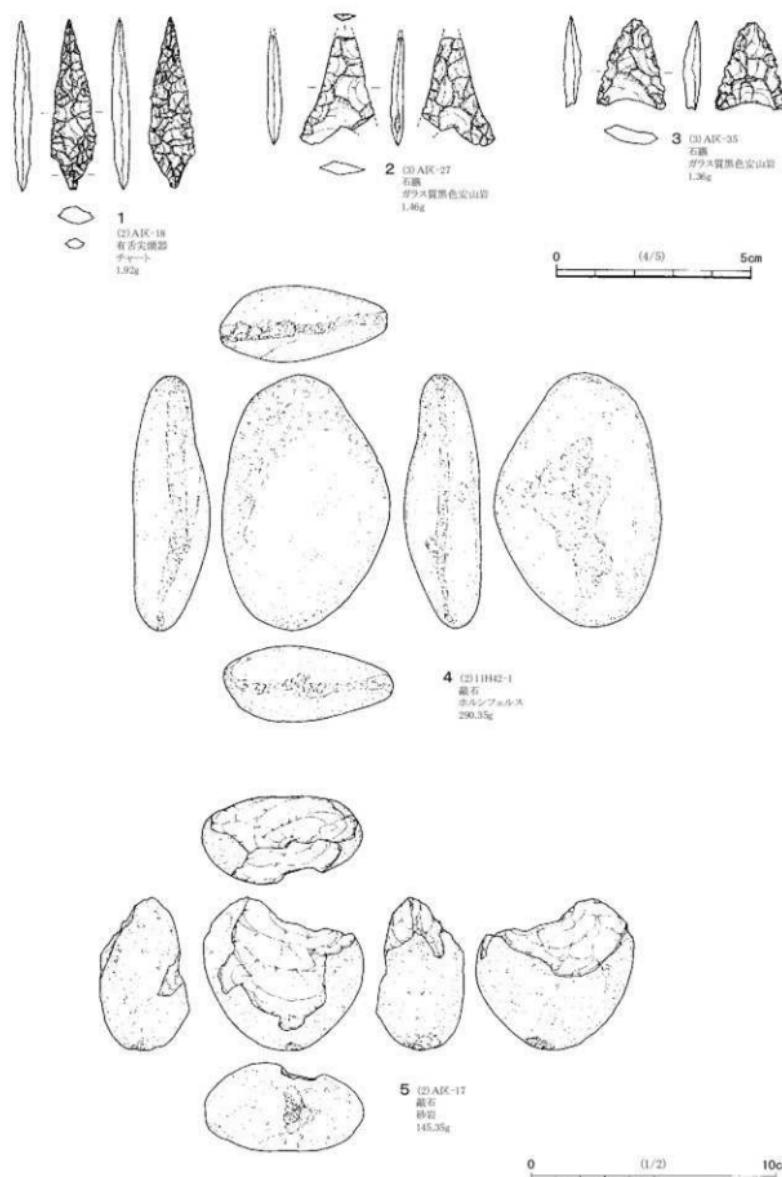
4・5は敲石である。4は扁平な円礫を素材として、周縁部のほぼ全周と裏面平坦部に敲打痕がみられる。5は厚みのある円礫を素材として、上下両端に敲打痕がみられる。上端部は強い敲打によって破損している。



第25図 繩文土器（1）



第26図 縄文土器（2）



第27図 繩文石器

第8表 旧石器属性表

文化層	遺物番号	グリッド	遺物 番号	遺物 種類	石材	番号	接合 番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	標高 (m)	現場取 上げ部位	調査 次数	遺跡名
1	第468-1	03EC-9C12	1	二次加工の小片	玉髓	1000	96.9	93.7	12.34	22.44	25410.14	5885.780	40.05	IV-III層	3	香山新田新山	
2	第468-1	03EC-9C47	3	二次加工の小片	練瓦質頁岩	2000	32.05	30.0	7.79	4.96	-25472.688	5885.000	40.29	V-IV層	3	香山新田新山	
2	第468-2	03EC-9C57	1	二次加工の小片	練瓦質頁岩	2000	28.0	29.06	6.40	4.72	-25471.036	5885.934	40.30	V-IV層	3	香山新田新山	
2	第468-3	03EC-9C67	5	刮削	玉髓	2000	34.58	25.54	6.04	6.34	-25472.307	5885.369	40.38	V-IV層	3	香山新田新山	
2	第468-4	03EC-9C67	2	刮削	瑪瑙	2000	30.26	32.22	9.21	8.94	-25472.208	5885.053	40.36	V-IV層	3	香山新田新山	
2	第468-5	03EC-9C67	4	刮削	ガラス質黑色岩	2000	32.37	40.63	8.53	10.87	-25472.407	5885.048	40.29	IV-III層	3	香山新田新山	
3	第468-1	03EC-9B06	1	刮削	ガラス質黑色岩	2000	23.55	30.08	9.25	5.25	-2545.478	5776.207	30.28	V-IV層	3	香山新田新山	
3	第468-2	03EC-9B06	1	刮削	玉髓	2000	25.4	12.41	4.51	1.36	-2544.074	5776.805	40.05	V-IV層	3	香山新田新山	
4	第468-1	03AK	3	ナイフ形石器	碧璽石	4000	20.42	11.3	1.79	2544.000	5886.016	40.79	IV-III層	3	香山新田新山		
4	第468-2	03AK	33	ナイフ形石器	碧璽石	4000	24.05	15.21	5.81	1.85	-2544.997	5885.649	40.67	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-3	03AK	39	ナイフ形石器	碧璽石	4000	16.67	11.09	3.22	0.48	-2544.0	5885.362	40.30	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-4	03AK	34	ナイフ形石器	碧璽石	4000	13.98	8.07	2.79	0.38	-2544.007	5885.394	40.42	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-5	03AK	1	A	ナイフ形石器	玉髓	4000	23.75	36.88	4.92	2.14	-2544.0	5885.362	40.30	IV-III層	3	香山新田新山
4	第468-6	03AK	37	刮削	珪質頁岩	4000	32.22	14.25	5.90	3.71	-2544.039	5882.473	40.35	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-7	03AK	13	二次加工の小片	碧璽石	4000	21.73	10.36	6.28	1.30	-2541.062	5882.700	40.76	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-8	03AK	8	二次加工の小片	碧璽石	4000	14.59	10.92	5.10	0.68	-2544.323	5885.325	40.66	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-9	03AK	12	二次加工の小片	碧璽石	4000	13.95	10.51	5.14	0.62	-2544.028	5882.119	40.45	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-10	03AK	23	二次加工の小片	碧璽石	4000	29.3	35.98	10.98	2.80	-2542.54	5882.430	40.95	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-11	03AK	22	二次加工の小片	碧璽石	4000	16.00	13.42	6.32	0.60	-2544.033	5882.384	40.83	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-12	03AK	30	二次加工の小片	碧璽石	4000	10.94	12.42	4.67	0.46	-2542.008	5882.312	40.70	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-13	03AK	19	二次加工の小片	碧璽石	4000	14.66	22.98	4.30	0.72	-2544.047	5886.636	40.98	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-14	03AK	11	二次加工の小片	碧璽石	4000	12.02	9.35	3.97	0.40	-2542.438	5886.765	40.28	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-15	03AK	6	二次加工の小片	碧璽石	4000	4.002	8.06	3.79	0.36	-2540.900	5885.785	40.74	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-15	03AK	26	直脚鏟形の小片	碧璽石	4000	6.74	8.42	2.98	0.30	-2543.206	5882.557	40.95	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-16	03AK	17	直脚鏟形の小片	碧璽石	4000	8.68	13.06	5.04	0.41	-2541.067	5882.894	40.98	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-17	03AK	25	直脚鏟形の小片	碧璽石	4000	16.59	8.29	3.10	0.29	-2540.465	5882.590	40.90	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-18	03AK	16	刮削	碧璽石	4000	7.36	12.26	2.22	0.12	-2542.008	5882.444	40.78	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-19	03AK	38	刮削	碧璽石	4000	13.08	14.74	2.57	0.37	-2542.008	5885.940	40.09	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-20	03AK	38	刮削	碧璽石	4000	9.06	15.53	2.05	0.24	-2541.351	5882.449	40.56	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-21	03AK	15	刮削	碧璽石	4000	8.73	6.41	1.90	0.06	-2542.02	5882.300	40.76	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-22	03AK	32	刮削	碧璽石	4000	14.68	5.50	1.60	0.12	-2540.483	5886.620	40.75	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-23	03AK	4	刮削	碧璽石	4000	9.77	9.66	1.56	0.30	-2540.052	5882.559	40.27	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-24	03AK	19	刮削	碧璽石	4000	9.55	8.62	3.76	0.36	-2543.792	5886.186	40.08	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-25	03AK	28	二次加工の小片	碧璽石	4000	4.001	14.04	9.86	4.22	-2547.351	5883.257	40.95	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-26	03AK	14	二次加工の小片	碧璽石	4000	12.73	10.59	5.35	0.71	-2542.438	5887.000	40.04	IV-III層	3	香山新田新山	
4	第468-25	03AK	2	石核	碧璽石	4000	4.001	25.39	29.28	15.74	9.47	-2544.083	5882.365	40.70	IV-III層	3	香山新田新山
4	第468-26	03AK	36	石核	碧璽石	4000	14.33	32.22	14.1	5.15	-2540.209	5882.608	40.50	IV-III層	3	香山新田新山	
4	4	03AK	23	石片	碧璽石	4000	6.01	5.1	1.04	0.03	-2541.067	5885.927	40.85	IV-III層	3	香山新田新山	
4	4	03AK	24	刮削	碧璽石	4000	13.07	13.38	3.73	0.62	-2540.031	5882.742	40.00	IV-III層	3	香山新田新山	
4	4	03AK	29	石片	碧璽石	4000	8.65	4.84	1.63	0.07	-2542.047	5882.922	40.78	IV-III層	3	香山新田新山	
4	4	03AK	31	石片	碧璽石	4000	7.60	4.19	1.21	0.05	-2541.962	5882.793	40.70	IV-III層	3	香山新田新山	
单独解説	第468-1	03AF-49	1	尖頭器	碧璽石	2000	20.08	5.76	2.91								香山新田新山
单独解説	第468-2	03AF-49H	1	刮削	石英	2000	29.34	12.06	11.35	-2546.203	5871.338	41.14	II-III層	3	香山新田新山		
单独解説	第468-3	C08GII	1	敲石	碧璽質	87.01	31.38	25.21	10.89								香山新田新山
1	第468-1	03HJ-274	1	二次加工の小片斜刀チャート	玉髓	1000	44.52	22.74	11.66	11.14	-2635.409	5871.775	40.47	IV-III層	2	香山新田新山	

第9表 繩文石器属性表

編成番号	グリッド	遺物番号	遺物種類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	標高 (m)	調査 部位	道筋名		
第468-1	(2)AK	18	有舌尖器	チャート	43.69	11.30	4.22	1.92						2	香山新田新山
第468-2	(3)AK	27	石鏃	ガラス質黑色岩	27.83	19.37	3.30	1.46	-2544.320	5882.891	40.90	3	香山新田新山		
第468-3	(3)AK	35	石鏃	ガラス質黑色岩	23.04	17.83	4.20	1.26	-2544.579	5882.272	40.717	3	香山新田新山		
第468-4	(2)HJ-142	1	縫石	ホルシルス	104.30	66.01	31.43	240.22					2	香山新田新山	
第468-5	(2)AK	17	縫石	砂岩	63.07	63.03	31.51	145.35	-2509.547	5882.963	40.933	2	香山新田新山		

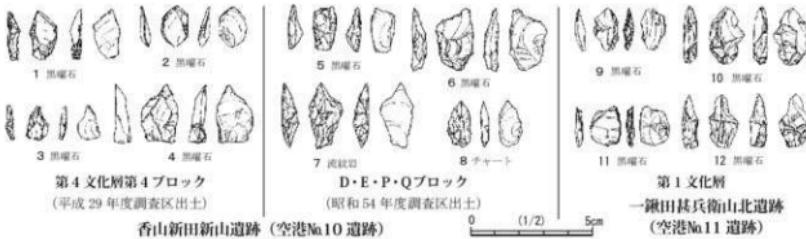
第4章 まとめ

第1節 香山新田安戸台遺跡（空港No.9遺跡）

香山新田安戸台遺跡は、旧石器時代の単独出土石器1点と土坑1基が検出された。単独出土石器はIX層上部から出土しており、第1次調査でこの時期の集中地点が3か所みられ、これらの石器群と関連しているものと思われる。

第2節 香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）

香山新田新山遺跡は、旧石器時代では第1文化層（IX層中部）・第2文化層（VII層下部）・第3文化層（VII層上部～VI層）・第4文化層（III層下部～中部）の4枚の文化層が検出され、各文化層に1か所の石器集中地点が出土した。また、炭化物集中地点は、第1文化層と第2文化層からそれぞれ1か所出土したが、明確に石器と共に伴するものではなかった。4枚の文化層のうち第4文化層は、ナイフ形石器終末期の「月見野期」に特徴的にみられる小型幾何形ナイフ形石器がまとまって出土していた。類似する石器群は、本遺跡の昭和54年度調査区のA～F・P・Qブロックの8か所の集中地点^{1) 2)}と、本遺跡から約1km北側に位置する一銀田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）の第1文化層³⁾があげられる。本遺跡周辺地域では月見野期の遺跡群が形成されていたと思われる。これらの石器群から出土した小型幾何形ナイフ形石器を第28図に集成した。いずれの石器群においても、ナイフ形石器の形状は切出形・台形・菱形・三角形など「幾何形」を呈したものが出土している。このうち、香山新田新山遺跡第4文化層と一銀田甚兵衛山北遺跡第1文化層は、單一小規模ブロックで構成され、黒曜石の占める割合が90%以上であり、非常に類似した内容を持つ。縄文時代では、土坑2基と早期遺物包含層が2か所検出された。縄文土器は早期の撚糸文系土器と沈線文系土器が主体を占めていた。



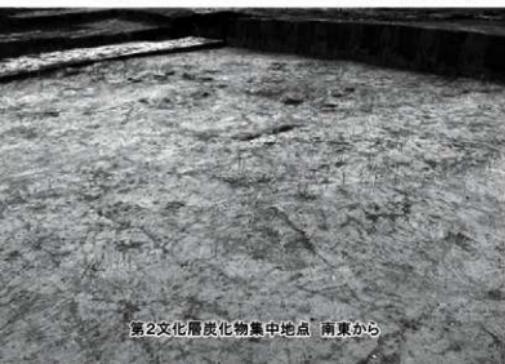
第28図 本遺跡と周辺遺跡出土の小型幾何形ナイフ形石器

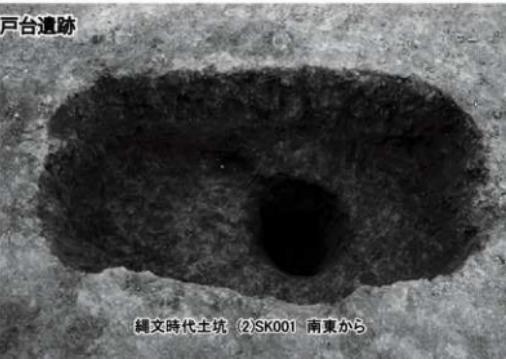
- 注 1 川島利道他 1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V—No.2遺跡・No.10遺跡—』(財)千葉県文化財センター
 2 永塚俊司他 2003『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XVII—香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）・十余三稻荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）—』(財)千葉県文化財センター
 3 新田浩三他 1995『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IX—一銀田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）—』(財)千葉県文化財センター

写 真 図 版

図版1







図版4

香山新田新山遺跡

第1文化層 第1ブロック



1 二次加工のある剝片
玉髓1001

第2文化層 第2ブロック



1 二次加工のある剝片
珪質頁岩2001
2 二次加工のある剝片
珪質頁岩2001



3 剥片
玉髓2001

第3文化層 第3ブロック



1 剥片
ガラス質黑色安山岩3001



2 剥片
玉髓3001

第4文化層 第4ブロック



単独出土石器



1 尖頭器
黒曜石



2 剥片
石英



3 薄石
石英岩

縄文石器



4 薄石
ホルンフェルス



1 有舌尖頭器
チャート



2 石器
ガラス質黑色安山岩



3 石器
ガラス質黑色安山岩

香山新田新山遺跡

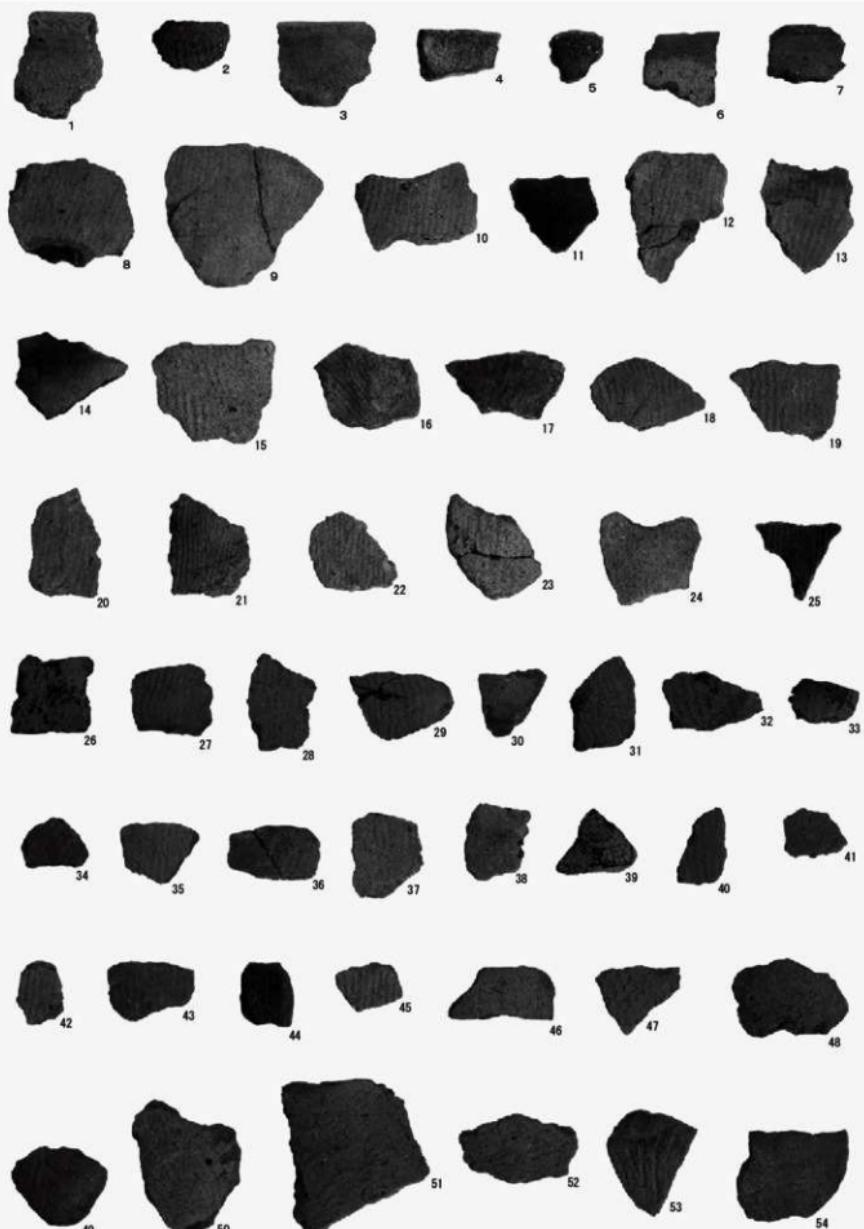
第1文化層 単独出土石器



1 二次加工のある剝片
チャート1001

非単独出土石器3、縄文時代石器4・5のみ 1/2スケール
0 (1/2) 10cm

0 (4/5) 5cm



香山新田新山遺跡出土縄文土器(1)

図版6



香山新田新山遺跡出土縄文土器(2)

報告書抄録

千葉県教育振興財団調査報告書第773集

成田国際空港駐機場整備埋蔵文化財調査報告書

—芝山町香山新田安戸台遺跡（空港No9遺跡）・香山新田新山遺跡（空港No10遺跡）—

平成30年3月23日発行

編 集 公益財団法人 千葉県教育振興財団

発 行 成田国際空港株式会社
成田国際空港内
(成田市古込字古込1-1)

公益財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 正文社
千葉市中央区都町1-10-6
